

総合経営学科（令和3年度前期）

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
S211029 経済学概論	GDP の概念と測定について説明することができる。 総所得概念について説明することができる。経済成長と雇用と失業が生じる原因と対策について説明することができる。 現実の経済的問題と経済理論との関係を明らかにすることで、経済学的なものを見方を身につけてもらうことを目的にしています。	専門科目ではあるが、大多数の学生にとって経済学の学習は初めてであることから、現実の日本経済や世界経済についての常識を身につけ、経済データや経済情報を修得してもらうことを基本目標とした。世界標準的な教科書(アセモグル・レイブソン・リスト『入門経済学』東洋経済新報社 2020 年)を指定し、その内容に即したスライドを利用して講義を行った。60 分という制約があり、経済学のマスターには不可欠な練習問題に取り組みを十分に行うことはできなかった。やはり、90 分の授業時間は必要であると思った。	授業評価 4.084 (4.2、3.9、4.1、4.0、4.1) 回収率 62.2% アセモグル・レイブソン・リスト『入門経済学』(東洋経済新報社 2020 年)は多くの大学で用いられている入門書であるが、講義時間内では、テキストの要約と重要箇所の説明で時間が費やされ、教科書に含まれている練習問題を十分に行うことができなかった。授業時間外課題として、練習問題の解答を指示したが、受講生が多く、解答状況の確認には限界があったかもしれない。
S211028 経営財務	企業の財務部門に配属された場合や自ら起業する場合に必要なとされる基礎知識や考え方を修得することができる。 財務管理論は、企業を運営するために必要な投資、資金調達、利益分配の基本原則に関する学問領域です。主として株式会社の起業および経営に必要な理論および実務について学びます。	講義用スライドに沿って講義を進め、特定の企業の財務に関する事例を対象にしたディスカッションも行い、理解を深めることに努めた。企業の財務活動は、学生には身近ではないため、自分で事業を始めるとしたら、ということから提案してもらい、その資金的な裏付けから考えてもらった。自分で仮説的なビジネスを考え、財務計画を立てるということは、意外に難しいようであった。	授業評価 4.095 (4.2、3.9、4.1、4.1、4.2) 回収率 64% 経営財務の標準的な大学レベルの授業は分量が多く、通常は4単位の授業である。それを2単位でまとめるためには、内容の取捨選択を大胆に行うことが必要であることを痛感した。2単位、1学期で終わられる新書版サイズのテキストはあるが、ビジネスパーソン向きであり、大学での講義に適しているとは言えない。講義のトピックの精選を進めることが今後の課題である。
S211060 専門ゼミナールⅢ (新カリ)	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントでき、ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培うことを目標とする。	専門分野のゼミナールの開始の学期であった。『ナゴヤが生んだ名企業』(日本経済新聞社)という比較的読みやすく、名古屋地区での就職活動にも有益な書をテキストにした。 短縮授業であったことから、プレゼンテーションの機会が少なかった。基礎的な文章作成能力はあっても、学術的な論説文の執筆経験が乏しい学生が多く、文章指導に時間がかかった。	授業評価 4.967 (5.0、5.0、5.0、5.0、4.8) 回収率 46.2% 授業時間が短いため、より効率的な授業時間の配分が必要とされる。13名在籍しているため、発表のローテーションを事前に十分調整し、無駄な時間が生じないようにしたい。
S211090 専門ゼミナールⅣ	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	10名を指導した。新型コロナ禍を避けるという理由での公欠希望者が数名いた。また、就職活動が夏まで続いた学生もいた。関心の違いから統一テーマを別々に設定した。結果として、それぞれのグループとしては問題がなかったが、ゼミ全体での相互評価の機会が不足していたのではないかと思う。	授業評価 4.720 (4.8、4.6、4.6、4.8、4.8) 回収率 50% 多人数のため、テーマ別にグループで研究指導を進める方式は維持するが、ゼミ全体でのグループ間の意見交換、相互評価も重要であり、そうした発表の回を設けたい。90分の授業に戻れば、解消できる問題もあると思う。

<p>S211043 金融リテラシー 【開放】</p>	<p>金融経済に関する基礎的な知識を身に付け、生活に必要なお金に関する情報を正しく理解し、判断することができる。生涯を通じて「お金を自分の味方につけられる」ようにするために必要な金融リテラシーの習得を目的とする。</p>	<p>金融リテラシーの習得を基本目標として、自著である『はじめての金融リテラシー』（昭和堂 2018年）を教科書として、講義形式を基本としながら、学生に問いかけながらわかりやすい授業を進めた。毎授業の感想を出席票に記入させたところ、「授業内容がとてもわかりやすい」、「将来ためになる内容」といった記述が多くみられた。通常 90 分である授業時間がコロナ禍対策のため 60 分に短縮されたものの、授業の質を落とすことなく、計画通り進めることができたと考えている。</p>	<p>授業評価 4.4 (4.5、4.4、4.2、4.4、4.5) 回収率 60.2% 使用した教科書は本学の学生に適合させた自著であり、狙い通り授業ができたと考えている。今後は、よりその時の話題を取り入れることで、学生の興味や知識を増やす工夫を続けていきたい。</p>
<p>S211048 国際金融論 公教必</p>	<p>国際金融の基礎理論を理解し、為替レートの変動など国際金融に関する新聞記事やニュースを理解できるようになる。国際金融を体系的に理解できるようにすることを目標に、歴史・理論・現実をバランスよく扱う。</p>	<p>自著である『はじめての金融リテラシー』（昭和堂 2018年）を用いて、国際金融を理解するための基本知識をおさえたい。『国際金融論をつかむ』（小川英治 有斐閣 2019年）を用いた教材によって、国際収支、外国為替のしくみ、為替決定理論、世界金融危機、世界経済の変化などを扱った。具体的な事例をとりあげながら、わかりやすい授業を心がけたため、毎回の出席票の記述からも、授業内容がよく理解できたとの感想が多くみられた。授業時間が通常の 90 分から 60 分に短縮されていたものの、授業内容は薄くなることなく、計画通り進めることができた。</p>	<p>授業評価 4.2 (4.2、4.1、4.1、4.2、4.4) 回収率 63.3% 授業内容は受講生のレベルに適合した内容であったが、今後はよりその時々話題にあった内容を多く取り入れることで、より学生の興味をひきつけるよう、改善を続けたい。</p>
<p>S211071 ファイナンシャル・プランニングⅢ</p>	<p>不動産について学び、登記事項証明書からその土地や建物の物理的状況、権利の状態等を的確に読み取ることができる。マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけるとともに、将来のキャリアに必要な資格を取得し、専門的スキルを活用できるようにすることを目的とする。</p>	<p>自著である『はじめての金融リテラシー』（昭和堂 2018年）と、『ファイナンシャル・プランニング入門』（日本FP協会）を教科書として用いて、不動産と相続について、法的知識と実務的な内容を扱った。受講対象が、卒業を控えた 4 年生であることもあり、将来役立つ内容を具体的に扱うことで、学生の理解はほぼ計画通り進めることができた。授業時間が通常の 90 分から 60 分と短縮されていたものの、授業内容を省略することなく扱うことができた。</p>	<p>授業評価 4.3 (4.5、4.2、4.2、4.4、4.3) 回収率 43.9% 旧カリ科目の最終であったため、来年度以降、この科目はなくなる。この科目内容の一部を新カリでの「金融リテラシー」にてカバーできるよう、工夫していきたい。</p>
<p>S211076 国際経済論</p>	<p>貿易について理解し、貿易を通じて世界的な相互依存関係がさらに強まっていること、アジア太平洋地域との一体感がさらに進むことが理解できる。経営学の基本である経営資源（人、モノ、金、情報）が国際経済の中でどのように活用されているのかを学ぶことで、企業で実際にマネジメントできるようにする。</p>	<p>自著である『はじめての金融リテラシー』（昭和堂 2018年）によって基本的な国際経済の知識をおさえたい。『貿易論』（小峰隆夫 日経文庫）を使って、国際貿易がどのような流れで行われており、何が問題となっているのかを授業で取り扱った。具体的な事例をあげてわかりやすく説明することにより、学生の理解はほぼ目標通り進んだと考えている。</p>	<p>授業評価 4.6 (4.8、4.4、4.5、4.6、4.4) 回収率 45.0% 扱っている内容が比較的難しいにもかかわらず、学生の評価は高いと考える。今後は、その時々話題をできるだけとりあげることで、学生がより具体的に国際経済を理解し、自分的に国際経済観を形成できるように務めていきたいと考える。</p>

<p>S211033 専門ゼミナーⅠ (新カリ)</p>	<p>経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。</p>	<p>経営上の様々な問題を考えるために必要となる金融経済的な基礎知識を身につけられるよう、自著である『はじめての金融リテラシー』をつかかって、テーマごとに担当者を決めて、発表と討論を行った。 基本的な金融経済知識に乏しい学生が多く、この授業を通じて多くの知識を身につけることができたのではないかと考える。</p>	<p>授業評価 4.5 (4.4、4.4、4.6、4.6、4.6) 回収率 35.7% 授業時間が 60 分と短いため、学生の発表時間も制約が多かった。効率的な時間活用を工夫していきたい。</p>
<p>S211053 専門ゼミナーⅢ (新カリ)</p>	<p>経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>各自の設定した課題テーマを発表し、討論を行った。学生の調べた内容、解釈レベルには限界があるものの、自ら調査し、考える力を養うことがある程度できたと考える。 さらに、各自のプレゼン技術もそれなりに改善することができた。</p>	<p>授業評価 4.7 (4.7、4.7、4.5、4.8、4.8) 回収率 60.0% 今後は、4 年生からの卒業研究に向けて、自分の興味のあるテーマの設定と展開について個別に指導していきたい。</p>
<p>S211082 専門ゼミナールⅣ</p>	<p>自分で設定したテーマについての研究成果を卒業論文にすることができる。 専門ゼミナール入門、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学修したことを卒業論文にまとめるように準備する。</p>	<p>各自が設定したテーマについて個別指導を行った。 また、途中経過について、各自で発表させ、問題点をお互いに指摘するよう促し、改善点について指導した。</p>	<p>授業評価 4.7 (4.8、4.3、4.8、4.8、4.8) 回収率 40.0% 今後は、各自のテーマ設定と調査開始がより計画的に進むようスケジュール管理を徹底させていきたい。</p>
<p>S211011 経営の基礎Ⅰ</p>	<p>他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。</p>	<p>今年度は対面授業が基本であったため、直接話ができることが良かった。 担当した履修生の出席率が良かったので、課題の作成や問題点について、個々に対応できた。授業課題を時間内に作成させ、提出させることは、過程点の取得には効果があるが、時間の制約があるため丁寧に書くことへの指導が疎かになってしまった。</p>	<p>授業評価 4.5 (4.5、4.4、4.6、4.6、4.8) 回収率 77.3% 履修生と個々に対応する時間を設けて、大学生活を充実したものにできるような話しをし、経営学部での勉強に積極的に取り組めるような指導をするよう努めたい。</p>
<p>S211025 マーケティング論</p>	<p>達成目標 マーケティングの基礎理論について理解することができる。 授業で学んだキーワードを活用して、企業のマーケティング戦略が分析できるようになる。 マーケティングに関する基本的な理論と実態の理解を通して、企業や社会における課題発見力を身につけ、マーケティングを実践的に活用できることを目的とする。</p>	<p>パワーポイントを使用し、理論を分かりやすくするための事例を提示しながら、日常生活に身近な学問であることを実感してもらえようとした。マーケティングの基礎理論の理解と顧客志向や社会志向の考え方の必要性を理解できたものと思う。 すべて対面授業であったため、学生の反応を見ながらできたので、遠隔授業と比べやりやすかった。</p>	<p>授業評価 4.2 (4.5、4.1、4.1、4.3、4.2) 回収率 56.0% 必修科目のため、履修者全員が単位修得できるように、商品の現物等を提示するなどしてより興味が持てるような工夫をしていきたい。</p>
<p>S211051 専門ゼミナーⅢ (新カリ)</p>	<p>経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>履修者がすべて留学生のため、日本語能力の向上を主目的として取り組んだ。それぞれの関心事について調べ、まとめ、パワーポイントを使用して発表させる方式で進め、発表内容について、質問し、レクチャーした。 学生自身が興味のある分野を扱うように取り組んだので、積極的に取り組んでいたと思う。しかし、もっと意見交換ができるようにすると日本語の勉強に役立ったと反省している。</p>	<p>授業評価 4.8 (4.8、4.8、5.0、4.8、5.0) 回収率 80.0% テーマ設定をして、調べ、発表するだけではなく、発表後の意見交換を積極的に行うように指導していきたい。</p>

U211013 インターンシップ	社会で働くことの意味を考えられるようになる。 自己の職業適性を見つけることができる。 将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。	履修生全員 (10 名) が、希望するインターンシップ先を選べるように個々に対応した。新型コロナの影響により、実習ができなくなった学生が出て、最終的に単位取得できたのは半分の 5 名となった。中には、もっと細かい注意をすれば実習ができた学生もいたので、その点が悔やまれる。	回答なし。
S211068 グリーンマーケティング	地球環境問題への対応をはじめ、企業の社会的存在を念頭においたマーケティングのあり方を理解し、実際に行われているマーケティング活動に対して関心をもち、自分自身でグリーンマーケティング戦略を考えることができるようになる。	マーケティングの授業を履修していない学生や履修していても理解できていない学生が多くいたので、まずはマーケティングの基礎知識を理解することに重点をおいた。そのうえで地球環境問題をはじめ、社会的課題に対応するマーケティングの必要性を説いた。企業の具体的な取り組み事例を調べることにより、グリーンマーケティングの理解を進めたが、マーケティングの基本に時間をかけすぎてしまった点を反省している。	授業評価 3.7 (3.7、3.3、3.9、4.0、3.9) 回収率 63.6% 4 年生科目は、それ以前の基礎を学んでいることが前提となるので、基礎的な内容を再度把握するための資料作成等を行い、効率よく本題に取り組めるようにしたい。
S211081 専門ゼミナーⅣ	自分のテーマに基づいた研究成果を効果的に伝えるコミュニケーションができるようになる。 ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的な判断力で自分の関心テーマについて考えることができるようになる。	卒業論文の作成を念頭に、テーマ設定・資料収集・資料のまとめ・報告を行った。 就職活動のため、全員揃っての授業が少なかったため、意見交換する機会があまり持てなかった。 テーマが決まらない学生とは、関心事について話し合い、テーマを決める過程で関連する情報収集を行い、論文作成ができるかどうかの判断が可能になるように指導した。 資料収集については、インターネットだけでなく文献検索の指導にも注力した。	授業評価 5.0 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 20.0% ゼミ生 1 名の回答ではあるが、個別にきめ細かく対応した結果であると思う。今後も一人ひとりの学生の状況に応じて指導していきたい。
専門ゼミナールⅢ	授業の目標は、経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできるようになることを目指します。 教育効果としては、ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できることを期待します。	履修者 4 名の小人数の授業で、学生は教職を目指す学生がほとんどで、教育をめぐる諸課題、学校経営の在り方などのテーマを中心に情報を収集し、発表を通じて学生が主体的に課題に取り組んだが、表面的な理解に終わり、多面的・多角的に思考、表現する点に欠ける点があり、後期には多くの文献に当たらせ、個別にアドバイス、支援をする場面を多く設定していくつもりである。	授業評価 4.75 (4.8、4.8、4.8、4.8、4.89) 回収率 100% 科目 GPA4.0 授業評価の低かった学生の達成目標の到達を実現できる手立てとして、授業課題、授業外課題を工夫して、受講生徒が主体的に学習する方策を今後考えていきたい。
事前・事後指導	教師としてふるまい、学習指導案の作成と生徒の前で授業が出来る指導と実践ができる。 実習生は学ぶ生徒である立場と教える先生の立場とを兼ね備えるという視点から、この二つの立場の本質を理解することを重点にします。外部の学校での実習に臨むために、本校の学生としてふさわしい態度、言葉づかい、あいさつ等一般社会での常識を習得し、人間性を磨くことを含めて行います。	学習指導案の作成、模擬授業の実施、担任としての業務の把握なども高いレベルで実施でき、学生もある程度の自信をもって教育実習の取り組むことができた。また、実習中の流れと心得を実務、実践レベルでまとめたパワーポイントの教材は学生に好評であった。	授業評価 4.4 (4.3、4.8、4.3、4.3、4.3) 回収率 100% 通年科目で GPA 記載せず。 授業評価にみられるように、学生が達成目標や成果がある程度得られたことから、さらに実際の学校現場で授業、担任業務に対応できる ICT を使用した実践的な学習課題の工夫や模擬授業の実施などを考えていきたい。

教育実習 I	授業の目標としては、実習校で、教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。教育効果としては、学校現場において、教科の知識、指導技能、面談技能など実際の教育現場で対応できるようになることを目指します。	この科目、すべて教育実習校で行われる授業であることから、大学の担当教員としての自己評価はないが、教育実習中の巡回指導において学生との面談や指導教諭との連携はできた。	授業評価 4.1 (4.0、4.3、4.0、4.0、4.3) 回収率 75% 通年科目であることから GPA を記載せず。 教育実習に対する事前・事後指導において、現在の教育現場に即した実践的な指導の場面を取り入れた工夫を図ってきたい。
教育実習 II	授業の目標としては、実習校で、教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。教育効果としては、学校現場において、教科の知識、指導技能、面談技能など実際の教育現場で対応できるようになることを目指します。	この科目、すべて教育実習校で行われる授業であることから、大学の担当教員としての自己評価はないが、教育実習中の巡回指導において学生との面談や指導教諭との連携はできた。	回収率 0% 通年科目であることから GPA 記載なし。 教育実習に対する事前・事後指導において、現在の教育現場に即した実践的な指導の場面を取り入れた工夫を図ってきたい。
L211009 情報リテラシー A1	①情報倫理を身につけることができる。 ②簡単なビジネス文書を作成することができる。 ③簡単な表計算・グラフを作成することができる。	対面授業になって受講生 50 人程度なので SA1 人がいれば対応できる体制を整えた。 情報リテラシーは、もともと演習科目なので実際に操作しなければ学修できない科目であったため対面授業になりよかった。	授業評価=4.3 (4.4、4.1、4.3、4.3、4.3) 回収率=97.8% 課題が多かった。
L211010 情報リテラシー D1	①情報倫理を身につけることができる。 ②簡単なビジネス文書を作成することができる。 ③簡単な表計算・グラフを作成することができる。	対面授業になって受講生 50 人程度なので SA1 人がいれば対応できる体制を整えた。 情報リテラシーは、もともと演習科目なので実際に操作しなければ学修できない科目であったため対面授業になりよかった。	授業評価=4.3 (4.4、4.1、4.3、4.5、4.4) 回収率=72.7% 課題が多かった。
L211012 情報リテラシー B2	①情報倫理を身につけることができる。 ②簡単なビジネス文書を作成することができる。 ③簡単な表計算・グラフを作成することができる。	対面授業になって受講生 50 人程度なので SA1 人がいれば対応できる体制を整えた。 情報リテラシーは、もともと演習科目なので実際に操作しなければ学修できない科目であったため対面授業になりよかった。	授業評価=4.3 (4.4、4.1、4.3、4.3、4.4) 回収率=79.3% 課題が多かった。
L211013 情報リテラシー B3	①情報倫理を身につけることができる。②簡単なビジネス文書を作成することができる。③簡単な表計算・グラフを作成することができる。	対面授業になって受講生 50 人程度なので SA1 人がいれば対応できる体制を整えた。 情報リテラシーは、もともと演習科目なので実際に操作しなければ学修できない科目であったため対面授業になりよかった。	授業評価=4.1 (4.5、4.0、4.0、4.0、4.1) 回収率=71.8% 課題が多かった。
S201015 IoT 社会 【開放】	IoT の発展の経緯や仕組みを理解し、説明することができる。	PC の基礎、インターネットの基礎、経営の基礎が身につく IOT 社会である。学生の生活に沿った授業をしても理解しがたいことが多々あった。基礎学習が必要である。	授業評価=4.2 (4.5、4.1、4.0、4.4、4.3) 回収率=77.1% 難しいことはやめ基礎に徹すること。
S211031 専門ゼミナー I (新カリ)	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	2 年生の前期専門ゼミは、IT パスポートの資格取得に頑張ってきたが 2 名の合格であった。自宅学習がないため IT パスポート試験を受験しても点数が伸びていないのがわかった。	授業評価=4.35 (4.7、4.1、4.3、4.3、4.4) 回収率=70.8% 学生自らの学習が見受けられない。今後課題等に工夫が必要である。
S211045 経営とソーシャルメディア	ソーシャルメディアの基本を学び、各メディアの特性を知り、企業経営にどのように取り入れていくかを理解することができる。	多くの学生が SNS を使っているが、企業として(店)売り上げにつなげることを知らない。この授業で企業としての SNS の使用方法が理解できればよい。	授業評価=4.5 (4.7、4.6、4.4、4.5、4.5) 回収率=71.9%

S211052 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	3年生の前期専門ゼミは、MOSのワード資格取得に頑張ってきた。合格でき良かった。	授業評価=5.0 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率=66.7%
S211094 専門ゼミナールⅣ	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。	学生は、卒論のタイトルを決めるもなかなか進まず、就活に力を注いでいるようだ。指導方法の模索。 昨年 IT パスポートの学習をしていた為 1 名試験に合格した。	授業評価=4.5 (4.5、4.5、4.5、4.5、4.5) 回収率=40.0%
S211043 トレーニング演習	達成目標 ①体力の診断と問題解決の方策を助言できる能力を身につけることができる。 ②身体状況と体力的特性に応じて適切な運動プログラムを作成できる。 ③安全で効果的な運動プログラムの実践に必要な知識と技能を身につけることができる。	フィットネス・エクササイズに関する幅広い知識と技能の学習を講義と実技の混成による対面形式にて実施したが、外国人学生がほとんどであったため (4/5)、内容を伝えるための用語理解に終始した感があった。この場合、用語の解説をより平易な言葉で説明する配慮が必要であると認識した。ただ、個々の経験による日本の運動学習と海外 (中国とネパール) との対比ができたことは良かったと思う。	授業評価 4.44 (4.3、4.0、4.3、4.8、4.8) 回収率 80.0% 科目 GPA1.80 GPA1.80 は低い水準であった。やはり、ほとんどの受講者が外国籍の学生で、もう少し平易な言葉での説明など、何らかの工夫が必要であったと思われる。次回からの課題としたい。
S211100 戦略思考 I	達成目標 ①与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。 ②他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。 ③現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身につけることができる。	振り返りにおける 1 名の欠席のみで、出席率はほぼ 100%だったが、取り扱った内容がやや難解であったことや、レポート提出で期限を守れなかった学生が多く、全体的に評価は下がった。 授業に関しては、将来スポーツ指導者を目指している学生が多く、選手とコミュニケーションを取り合い、直面する各課題に対処していくことは選手育成にとって大きな課題であることから、熱心に取り組み、質問や意見も活発に行われた。	授業評価 5.00 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 33.3% 科目 GPA1.50 GPA1.50 を受け、授業内容に関しては、もう少しかみ砕いた内容で理解を促す必要があったと考える。また、回収率が 1/3 ということで、授業評価に対し残念な結果となった。後期の戦略思考Ⅱでは評価アンケートの調査理由と必要性についてしっかり説明すべきと考えている。
S211024 マーケティング論	達成目標 マーケティングの基礎理論について理解することができる。授業で学んだキーワードを活用して、企業のマーケティング戦略が分析できるようになる。マーケティングに関する基本的な理論と実態の理解を通して、企業や社会における課題発見力を身につけ、マーケティングを実践的に活用できることを目的とする。	事例と理論を組み合わせ、日常生活に身近な学問であることをわかりやすく説明して理解を促した。 極力具体的で身近なケースを提示して、イメージしやすいように工夫をした。授業を通して身に着けたマーケティングの基礎理論によって、社会志向・顧客志向の実践的な判断ができるようになったと考える。	授業評価 4.2 (4.3、4.1、4.1、4.3、4.2) 回収率 75.3% 新カリキュラムに移行して必修科目となったこともあり、必要な出席回数を満たして履修者全員の単位修得を目指す。商品の現物の提示や動画による事例紹介を取り入れ、テーマに対する関心を高めていきたい。
S211061 専門ゼミナールⅢ (新カリ)	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培うことを目的とする。	各自で行ったケース分析の結果をメンバーで共有し、人の意見を参考にしながら思考する探求力を身につけるように心掛けた。また他のメンバーが取り組んだ事例から新たな気づきや関心が持てるように解説した。	授業評価 4.6 (4.7、4.5、4.5、4.7、4.7) 回収率 91.7% 各自が取り組んだケーススタディに加え、他の学生の発表や意見からも刺激を受け、新たなテーマに自主的に取り組むように指導を行う。 その結果として、広い視野で研究にアプローチできる力が身につくことを目指したい。
S211091 専門ゼミナールⅣ	達成目標 企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。ビジネスパーソンとして必要な経営戦略的思考と職業的倫理観を身につけ、社会に出てから活躍できる能力を養うことを目的とする。	事例や先行研究にあたりながら卒論のテーマを絞っていき、各自の報告とフィードバックをメンバー全員で共有した。その結果として、相互に影響を与え合い、問題意識を高めることができたと考える。	授業評価 4.5 (4.8、4.2、4.3、4.6、4.6) 回収率 90.0% 卒論執筆の準備段階として、何を明らかにするのかという方向性を明確に持てるよう指導を行う。 その上で、卒論テーマに応じて個別に参考文献の紹介や調査方法などを提示し、テクニカルな指導を段階的に加えるようにしたい。

<p>S211032 専門ゼミナー I (新カリ)</p>	<p>達成目標 経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。</p>	<p>ゼミ生の3分の2が留学生である。ケースの選択にあたって、留学生でも知っている身近で親しみやすい商品や企業を取り上げた。 各自で行ったケース分析の結果をメンバーで共有し、人の意見を参考にしながら思考する探求力を身につけるように心掛けた。</p>	<p>授業評価 4.6 (4.7、4.5、4.5、4.6、4.6) 回収率 82.3% 日本語での意見交換に留学生はハンディキャップがあるが、敢えて各メンバーのプレゼンテーションに対し全員からコメントを求め、ディスカッション能力の向上を目指すと共に、経営に対する関心も高めるように指導したい。</p>
<p>U211008 日本の産業</p>	<p>達成目標 日本の産業の発展過程と特徴を理解することができる。 産業と社会との関係を理解することができる。今後のあるべき日本の産業像を考察することができる。 日本のさまざまな産業が発展してきた歴史や社会的背景の理解を通して、専門分野と産業、社会との関係における課題発見力を身につけると共に、産業が今後どのように変化していくのかを考察することを目的とする。</p>	<p>極力具体的で身近なケースを提示して、イメージしやすいように工夫をした。各産業が発展する方策を提案してもらった課題を出し、その提案を共有することで多様な考察ができるように心掛けた。 その結果、各学科の専門に合わせて産業と社会との関係を理解することができたと考える。</p>	<p>授業評価 4.4 (4.4、4.4、4.4、4.5、4.5) 回収率 66.7% 各産業が発展してきた歴史と現状と共に、将来像にも重きを置き、専門分野と産業、社会との関係における課題発見力を身につけることができるようにしたい。</p>
<p>L211048 キャリアデザイン I B1</p>	<p>自己のこれまでの経験・学びについてまとめ、伝えることができる。 自分軸を形成することができる。 自己に必要な知識や能力が認識できる。 学科の学びに関係した仕事について理解し、就職活動の準備をすることを目的とする。</p>	<p>募集・採用の現状、日本的雇用制度、キャリア形成など学科の学びに関係した仕事を理解しビジョンを描くことができることを中心に実施した。 その他、履歴書作成、面接訓練など、学科の学びに関係した仕事を理解したうえでビジョンを描くことの重要性を概ね認識させることができたと考える。</p>	<p>授業評価 4.49 (4.4、4.4、4.5、4.6、4.6) 回収率 57.4% 科目 GPA3.39 ワークやプレゼン方法を検討することにより、就活準備とともにこれからの働き方・生き方についての実践的な内容を目指したい。</p>
<p>S211101 戦略思考 I</p>	<p>与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。 他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。 現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。 担当教員ごとの専門科目において必要な戦略思考能力を身につけ、総合的な視点から判断できる能力を培う。</p>	<p>労働条件に関する制度解説とともに身近な問題を提供しつつ実施した。 パワーポイントによる解説・レジュメ・VTR・課題が、うまくかみ合ったこともあり、目標は概ね達成できたと考える。</p>	<p>授業評価 4.54 (4.7、4.5、4.4、4.6、4.6) 回収率 71.0% 科目 GPA2.80 パワーポイント解説・レジュメ・VTR・課題の組合せについて、今一度検討し、より実践的な内容となるよう工夫したい。</p>
<p>S211034 専門ゼミナー I (新カリ)</p>	<p>経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。</p>	<p>ゼミ課題である「これからの企業はどうあるべきか、働く人たちに求められるものは何か、そして、自分はどのように働き、生きていくのか」といった問題について、その考え方の基本をファイナンシャルプランナーをゲストに招き、ワークやプレゼンを実施した。 ゲストの協力もあり、目標は概ね達成できたと考える。</p>	<p>授業評価 4.84 (4.9、4.8、4.8、4.9、4.9) 回収率 69.2% 科目 GPA4.0 ワークは多く実施したが、プレゼンの機会が少なかつたため、今後は、プレゼン機会をできる限り多くしたい。</p>

S211083 専門ゼミナールⅣ	これからのキャリア(自分らしい働き方・生き方)について、企業と人との関係、人材マネジメント、社会保障制度などから総合的にデザインすることができる。	卒業論文作成のための資料収集、概要作成を中心に実施した。これからのキャリア(自分らしい働き方・生き方)についての意識も高まり、課題は概ね達成できたと考える。	授業評価 5.00 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 37.5% 科目 GPA4.0 卒業論文の早期完成とともに、プレゼン、ディスカッションの回数確保を図りたい。また、ワークやプレゼン方法を検討することにより、多様な働き方や生き方に対応したより実践的な内容としたい。
L211035 スポーツ A A, D	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	今年度は、60分の対面授業+30分のオンライン課題という形態で、実施した。達成目標では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することとされており、60分の対面授業では、十分ではないが、それなりに達成目標を達成できたと考える。技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、そのためには、ある程度の時間を要する。60分の対面授業で工夫して実施することが必要である。	授業評価 4.2 (4.5、4.0、4.1、4.3、4.2) 回収率 88.5% 科目 GPA1.84 (F以外 2.52) すべてオンラインであった昨年度に比べれば、欠席過多、課題未提出学生以外は、ほぼ例年通りの GPA であり、授業評価(達成目標)も、回復した。実技を伴う授業で、得手不得手があるため、全員が達成目標に到達するのは難しいが、個別指導も含め、自己の成長を実感できるような授業を心がけていく。
L211043 健康・運動の科学 A, D	達成目標 ①健康に関する様々な知識・考え方を理解できる。 ②自分にあった健康処方・運動処方をデザインできる。	昨年度のオンライン授業に比べ、60分の対面授業+30分のオンライン課題は、一般的な学生には、有効な方法であると感じるが、授業に集中できず、課題を後で出すことでさぼってしまう学生にとっては、十分に対応できなかったのかと感じる。内容的には、毎年、少しずつリニューアルし、より興味を持てるよう工夫しているが、それ以前に、出席をし、集中して受講する態度、また、その日のうちに課題を提出させる習慣を身につけさせないと、十分な効果が得られないと感じる。	授業評価 4.1 (4.2、3.8、3.9、4.2、4.1) 回収率 62.9% 科目 GPA1.72 教養科目としては、GPAと比較して、授業評価は高い傾向にあった。達成目標と授業内容があっていたためと考える。授業時間中にフォローする体制、その時間に学生が課題と向き合うような方法を引き続き模索していきたい。
L211044 健康・運動の科学 B	達成目標 ①健康に関する様々な知識・考え方を理解できる。 ②自分にあった健康処方・運動処方をデザインできる。	昨年度のオンライン授業に比べ、60分の対面授業+30分のオンライン課題は、一般的な学生には、有効な方法であると感じるが、授業に集中できず、課題を後で出すことでさぼってしまう学生にとっては、十分に対応できなかったのかと感じる。内容的には、毎年、少しずつリニューアルし、より興味を持てるよう工夫しているが、それ以前に、出席をし、集中して受講する態度、また、その日のうちに課題を提出させる習慣を身につけさせないと、十分な効果が得られないと感じる。	授業評価 4.0 (4.2、3.7、3.8、4.2、4.1) 回収率 50.0% 科目 GPA0.7 教養科目としては、GPAと比較して、授業評価は高い傾向にあった。達成目標と授業内容があっていたためと考える。授業時間中にフォローする体制、その時間に学生が課題と向き合うような方法を引き続き模索していきたい。

<p>S211001 スポーツ科学概論</p>	<p>達成目標スポーツに関わる者として必要であるスポーツ科学および周辺知識を習得できる。スポーツ科学全般に加えスポーツ振興政策と社会体育論、スポーツに関する法的知識、スポーツ心理学、スポーツ組織論についても理解できる。対象者の年齢に合わせたスポーツ指導の方法を理解できる。</p>	<p>概論ということで、スポーツ科学のあらゆる分野の授業を、1回、ないしは2回で、ある程度、その分野の知識、雰囲気を理解してもらうことに主眼を置いている。今年度、3年目、昨年の内容をブラッシュアップして、対面授業で指導した。内容的には、1年目に比べれば、かなり改善されてきたと感じるが、60分の対面授業+30分のオンライン課題という形態に、新入生である1年生が十分に対応できていないところが課題である。</p>	<p>授業評価 4.4 (4.6、4.2、4.2、4.4、4.6) 回収率 67.9% 科目 GPA1.15 課題自体は、昨年度よりも多くしたが、その気になれば、ある程度の質と量を30分程度でこなせるものであったことを考えると、オンライン課題になれていない新入生には、取り組みづらさもあったと考える。個々の科目云々よりも、学生が授業に適應できるような技術、環境、リテラシーを高めることが、対面授業以上に必要だと考える。 GPAが低下(1.9→1.15)したのに対して、授業評価(4.0→4.4)が高かったのは、対面授業によるわかりやすさにあったのかと推測している。</p>
<p>S211013 経営の基礎 I</p>	<p>達成目標 他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。</p>	<p>昨年度、初めて担当した教科で、実際の授業コンセプトを、達成目標に即したものに担当者の話し合いで改善した。1年生全員を大教室で行う講義形式としたためか、対面授業60分+オンライン課題30分というイレギュラーな形式のためか、新入生の対応には、ばらつきが見られた。 極力、スマホから提出できるweb提出の形式とし、課題提出のための指導も行ったが、全体的に課題の提出率が十分でなく、内容も評価が低かった。 個別の対応をしていくには、大教室、全体で実施する授業比率を下げて、少数で指導する必要性を感じた。</p>	<p>授業評価 4.1 (4.2、3.9、4.0、4.0、4.2) 回収率 61.9% 科目 GPA1.57 昨年よりもGPAが下がりながらも、授業評価は同等であった。GPAを考えれば、積極的な学生が回答したとも推測できる。次年度は、達成目標にあわせた授業内容を設定するとともに、ゼミ単位での講義が出来ればと考える。</p>
<p>S211023 スポーツ指導論</p>	<p>達成目標 スポーツ指導者の立場や役割を理解できる。 スポーツ指導者に必要なスポーツ科学の知識を習得できる。 スポーツ指導の過程を理解し、その実践方法を習得できる。</p>	<p>旧カリキュラムで前後期、スポーツ指導論ⅠⅡと分かれていたものを、昨年度から、新カリキュラム、スポーツ指導論として統合された。 昨年オンライン授業として行ったものを対面授業用にリニューアルして行った。 課題を提出する学生は、問題なく達成目標に近づけたと感じるが、欠席が多い、課題を出さない学生は、内容の修得が困難であった。</p>	<p>授業評価 4.3 (4.7、4.0、4.0、4.6、4.4) 回収率 71.1% 科目 GPA1.29 学生の傾向として、課題を出さない学生の割合が多く、対応に苦慮した。GPAが大幅に下がったにもかかわらず、授業評価(3.7→4.3)は高く、課題未提出学生の対応方法を再検討したい。</p>
<p>S211063 専門ゼミナーⅢ (新カリ)</p>	<p>達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。</p>	<p>課題をこなせる学生3名、レポート作成の初歩が理解できないレベルの学生2名、再履修生2名で、内容的には、専門ゼミナーⅢの内容に到達させるべき工夫をした。 課題をある程度こなせる学生は、それなりの成果を得られたが、途中で投げ出したり、課題に真摯に取り組まない学生にとっては、達成目標に近づけるゼミナー授業にはならなかった。</p>	<p>授業評価 4.1 (4.3、3.5、4.2、4.5、4.2) 回収率 85.7% 科目 GPA1.0 8名中3名が不可、欠時超過で、昨年と同じGPAが1.0であったが、授業評価は高かった。合格した5名は、専門ゼミナーⅢの達成目標を達成していたと考える。最低限、レポート作成できるレベルの学生を確保しないことには、達成目標に沿ったゼミ授業(運営)は難しいと考える。</p>

<p>S211093 専門ゼミナールIV</p>	<p>達成目標 体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。</p>	<p>昨年の専門ゼミで半数しか合格していない受講者で、かつ、合格者も1名は欠席が多く、もう1名は自分で論点を考えることが出来ない学生、昨年の不合格者3名は、3年ゼミの課題も満足にこなせない状況で、指導は困難を極めた。 とにかく、文献を読むためのノウハウから再度指導するが、思うような指導効果が得られなかった。</p>	<p>授業評価 4.8 (5.0、4.7、5.0、4.7、4.7 ) 回収率 60% 科目 GPA0.6 GPA が極端に低いにもかかわらず、授業評価は高いという不可思議な結果となった。 指導内容は、達成目標に沿って、ある程度達成できたと学生自身が感じていたと考える。 今後も、学生のレベル、状況を鑑みながら、最低限のレベルはクリアさせていく。</p>
<p>L211011 情報リテラシーB1</p>	<p>①情報倫理を身につけることができる。 ②簡単なビジネス文書を作成することができる。 ③簡単な表計算・グラフを作成することができる。</p>	<p>私自身、初めての担当であり、最初の数回は特に戸惑う事も多かった。UNIPA の使用方法、成績評価シートへの記入などに慣れるのに時間がかかった。教科書に沿って、Office を教えるので、授業の準備や内容的には特に問題は感じなかった。学生の方も1年生であり、最初のうちは UNIPA での課題提出に戸惑う学生もみられた。期末テストは、加藤先生に教えて頂いて、UNIPA を用いた4択問題で実施する事が出来た。毎回、Office の製作物を提出させたが、さぼる学生がいる反面、大半の学生は真面目に取り組んでいた。</p>	<p>授業評価 4.3 (4.1、4.2、4.2、4.3、4.4) 回収率 76.8% 科目 GPA2.59 概ね良い成績を取る学生が多かった。 来年度は、私も慣れて来たので、初回からスムーズに授業が進行するように取り組みたい。 授業の達成目標の説明が行われていないと感じた学生も一定数居たようなので、来年度はしっかり行いたい。</p>
<p>S211003 経営と情報</p>	<p>経営に必要な情報について理解することができる。 経営情報システムが企業の経営戦略にどうかかわってきたかを理解することができる。 マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけるとともに、将来のキャリアに必要な資格を取得し、専門的スキルを活用できるようになる。</p>	<p>担当初年度だったので、書籍やサイトを参考に、自転車操業で毎週、講義資料を作る綱渡りの展開となった。最初はハードやソフト等の IT の基礎的内容から入り、企業が昨今の情報社会、特にネット上の様々なツールをいかに活用すべきか、といった話を中心とする講義内容とした。 受講生が100名以上なので、座席を途中で前後入れ替えるなどの工夫をした。各回、学生が興味を持つようなトピック、トリビア的な内容を取り入れた為、面白いと言ってくれる学生もいた。 私語はあまりなかったと思う。</p>	<p>授業評価 4.4 (4.4、4.3、4.4、4.4、4.4) 回収率 71.1% 科目 GPA2.42 概ね高評価を貰えたが、来年度は授業時間が延びる分、さらに講義資料を追加し、授業に穴を開けないように注意したいと思う。特に、初年度で準備不足だった、初回、二回目あたりの内容を充実させたい。</p>
<p>S211009 経営の基礎 I</p>	<p>他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。 高校生から(本学)経営学部学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、経営学部学生としてのスケジュール・スキルを身につけます。</p>	<p>他の先生とのオムニバス形式であり、初年度ながら様々に教えていただき、何とか対応出来た。 こちらが注意しても、無断欠席を行う担当学生が居て、対応に苦慮した。 毎回、学生にそれなりの分量の文章を書かせる内容のため、学生の作文能力向上に役立つ内容だと感じた。しかし、字の汚い学生も目立つ。 担任をしている学生たちとのコミュニケーションも取れる良い科目だと思ったが、学生の顔と名前がなかなか覚えられず困った。特に野球部の学生たちは、似たような外見が多い。マスクをしているせいもあったと思う。</p>	<p>授業評価 4.2 (4.5、4.1、4.1、4.2、4.2) 回収率 81.0% 科目 GPA2.76 概ね学生たちは良い点数を取っていた。しかし、授業評価アンケートの「達成できたか」「自分の達成度に合っていたか」の点数が若干低く、少し授業を簡単にする必要があるかもしれない。</p>

<p>S211070 コンピュータシミュレーション</p>	<p>各種の現象をモデル化してシミュレーションを実行し、結果を評価できる能力の習得ができる。 本講義では、現象をモデル化してパソコンの上で実現することで現象を理解し、コンピュータシミュレーションの意味、モデル構成概念等について学習するとともに、マネジメントに必要な基本的スキルを身に付ける。</p>	<p>担当初年度であり、教科書は前年以前の先生が用いたものを使い、毎回の説明と課題をそこから出した。しかし、教科書が、本学学生レベルにはかなり難しい内容で、毎回苦勞した。ところどころ、私が用意した易しい課題なども交えた。しかし、途中で履修放棄気味に脱落する学生も一定数居た。 来年度も継続するならば、教科書を替える必要があると考えたが、来年度からは廃止になる科目のようである。さらに、途中からコロナ対応の遠隔授業となり、ますます指導が難しくなった。</p>	<p>授業評価 3.9 (4.2、3.8、3.8、3.8、3.9) 回収率 72.2% 科目 GPA 1.28 授業評価の各項目は①以外は軒並み低い点数だった。上記のような授業内容を反映した結果と思われる。</p>
<p>L211006 スタディスキル B1</p>	<p>達成目標 ①効果的にノートを取り、授業で学んだ知識を後から自分で再現できるようになる。 ②レポートやプレゼンテーション用のレジュメやスライドの構成を自ら考え、形式にのっとりそれらを作成することができる。 ③図書館やインターネットを利用して課題に関連する情報を収集し、整理することができる。</p>	<p>スタディスキルの授業内容は、自己紹介、本学の施設紹介、ノートの取り方、文章の要約、レポートの作成の 5 つに分けられる。このうち、自己紹介と本学の施設紹介は、経営の基礎 I においても似た内容を扱うため、必要なものは両方の授業で扱い、そうでないものに対しては必要な調整を行った。 また、レポートの作成は、情報リテラシーにおいても扱うが、大学の低学年のうち身につけておくべきスキルなので両方の授業で扱った。文章の要約とレポート作成の授業では動画を視聴させるなど授業内容が単調にならないようにした。授業全体を通して、大部分の受講生は熱心に取り組んでいたと感じている。</p>	<p>授業評価 4.352 (4.6、4.1、4.2、4.4、4.5) 回収率 76.4% 科目 GPA 2.58 今年度始めて担当した科目なので比較することはできないが、授業内容は受講生に受け入れられたのではないかと思う。次年度は、要約をさせる文章を、受講生により身近なものにしたいと思う。</p>
<p>L211019 数学と社会 A</p>	<p>達成目標 ①数学的な手法が、現代の社会の様々な場面で用いられていることが理解できる。 ②現代の社会で用いられている数学的な手法の原理について説明できる。 ③数学的手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。</p>	<p>インターネットを使って情報を送受信する際に使用されている暗号を題材に、現実の社会で役立つ数学について説明した。暗号文を元の文章にもどすためには、合同式の解を求める必要がある。合同式の解法に困難を感じる受講生がいたため、合同式を解く演習問題を出題した。 数学と社会 A、数学と社会 D、数学と社会 B の受講者はそれぞれ 28 名、36 名、140 名であった。数学と社会 A、数学と社会 D の科目 GPA はそれぞれ 2.71、2.61 であるので、数学と社会 A と数学と社会 D を合併してもよいのではないかと思う。</p>	<p>授業授業評価 4.418 (4.6、4.3、4.3、4.5、4.5) 回収率 81.5% 科目 GPA 2.71 次年度は、この授業で扱った RSA 暗号を応用したデジタル署名および暗号の関連技術であるハッシュ関数についてより詳しく説明したい。</p>
<p>L211020 数学と社会 D</p>	<p>達成目標 ①数学的な手法が、現代の社会の様々な場面で用いられていることが理解できる。 ②現代の社会で用いられている数学的な手法の原理について説明できる。 ③数学的手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。</p>	<p>インターネットを使って情報を送受信する際に使用されている暗号を題材に、現実の社会で役立つ数学について説明した。暗号文を元の文章にもどすためには、合同式の解を求める必要がある。合同式の解法に困難を感じる受講生がいたため、合同式を解く演習問題を出題した。 数学と社会 A、数学と社会 D、数学と社会 B の受講者はそれぞれ 28 名、36 名、140 名であった。数学と社会 A、数学と社会 D の科目 GPA はそれぞれ 2.71、2.61 であるので、数学と社会 A と数学と社会 D を合併してもよいのではないかと思う。</p>	<p>授業授業評価 4.172 (4.3、4.0、4.1、4.2、4.2) 回収率 82.9% 科目 GPA 2.61 次年度は、この授業で扱った RSA 暗号を応用したデジタル署名および暗号の関連技術であるハッシュ関数についてより詳しく説明したい。</p>

<p>L211021 数学と社会 B</p>	<p>達成目標①数学的な手法が、現代の社会の様々な場面で用いられていることが理解できる。②現代の社会で用いられている数学的な手法の原理について説明できる。③数学的手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。</p>	<p>インターネットを使って情報を送受信する際に使用されている暗号を題材に、現実の社会で役立っている数学について説明した。暗号文を元の文章にもどすためには、合同式の解を求める必要がある。合同式の解法に困難を感じる受講生がいたため、合同式を解く演習問題を出题した。 数学と社会 A、数学と社会 D、数学と社会 B の受講者はそれぞれ 28 名、36 名、140 名であった。また、数学と社会 B の科目 GPA がもっとも低いことを考えると経営学部用のクラスを 2 クラスにすることを検討すべきではないかと思う。</p>	<p>授業授業評価 4.377 (4.5、4.2、4.3、4.4、4.4) 回収率 69.1% 科目 GPA 2.36 次年度は、この授業で扱った RSA 暗号を応用したデジタル署名および暗号の関連技術であるハッシュ関数についてより詳しく説明したい。</p>
<p>S211008 経営の基礎 I</p>	<p>達成目標 他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。</p>	<p>本学の施設等の案内などからなる“大学生入門”から初めて、外部講師によるキャリア形成に関する授業および経営学の入門の授業を行った。 過年度生が 10 名受講していたが、3 名の過年度生を除けば概ね問題なく単位を取得した。受講生が 31 名と大人数だったため、一人一人の学生と話をする時間がなく残念であった。</p>	<p>授業授業評価 4.330 (4.6、4.0、4.3、4.4、4.3) 回収率 74.2% 科目 GPA3.13 次年度は、授業内容あるいは授業の進め方を工夫することにより、一人一人の受講生と話をする時間を確保したい。</p>
<p>S211050 専門ゼミナールⅢ (新カリ)</p>	<p>達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。</p>	<p>専門ゼミナールⅢの授業では、仮説検定について学んだ。具体的には、仮説検定の考え方および母比率の検定の例題の解法の説明を行い、その後受講生自身に母比率の検定の問題を作成させ、その問題を解かせた。母比率の検定の問題作成の授業では、まず、例題に含まれる数字を変更させ、その問題を解かせた。次に、例題はどのような構造を持った問題なのかを考えさせ、同じ構造を持つ問題を作成させた。例題に含まれる数字を変えた問題を作成・解くことはできるが、例題と実質的に異なる問題を作成することには困難を感じるようであった。</p>	<p>授業授業評価 4.475 (4.6、4.1、4.5、4.6、4.5) 回収率 72.7% 科目 GPA3.36 次年度は、仮説検定の説明を行う前に、二項分布の基本事項について十分時間をかけ確認するようにしたい。</p>
<p>S211080 専門ゼミナールⅣ</p>	<p>達成目標 論理的な思考ができるようになる。数学的に問題を解決することができる。</p>	<p>二項分布の定義、平均、分散、標準偏差、正規分布の定義、正規分布表の使い方を学んだのち、二項分布に従う確率変数が与えられた数より大きくなる(または小さくなる)確率の求め方について学んだ。確率変数が与えられた数より大きくなる確率の求め方の応用として、母集団の比率に関する検定を扱った。 母比率の検定の例題を説明したのち、例題に含まれる数値をどのように変更すると興味深い問題になるのか(あるいは意味のない問題になってしまうのか)について考える時間を設けた。</p>	<p>授業授業評価 4.714 (5.0、4.4、4.4、4.9、4.9) 回収率 58.3% 科目 GPA3.50 母比率の検定の問題という名称で一括りにしている問題には、二項分布に従う分布に関する問題と、二項分布に従う分布に関する問題ではないが解釈の仕方を工夫することにより二項分布に従う分布に関する問題とみなすことができる問題とがある。次年度は、この違いをわかりやすい例をあげて説明したい。</p>

<p>L211026 英語コミュニケーション A B1</p>	<p>①英語基礎力を確認することができます。 ②英語 4 技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際化理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組み、高等学校までの総復習をおこない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。</p>	<p>履修者数は総合経営学科 1 年生 62 名であった。前期は対面授業を、一部「公欠」の学生にはリモート(オンライン)授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度から授業時間が1時間に短縮されたので、演習課題(5分以内の小テスト)は実施せず、代わりに自宅に演習課題を持ち帰って、独力で取り組んで、次週の授業開始前に提出する方法を採用した。その結果、履修学生が毎週の学習や課題、宿題に取り組み、定期レポート試験をウェブ上で提出し、約80%の学生がこの科目に合格した。一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&amp;Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。しかし、本来の英語の授業は音声を使って、ペアワークやグループで英語を使いながら学習を進めることがほとんどできなかったのは残念であった。</p>	<p>総合評価 4.425 (4.5、4.3、4.4、4.5、4.5) 回収率 64.5% 60%以上の学生が高い評価をしてくれた。 この科目には、総合経営学科1年生 62 人のうち、80%以上の履修学生が合格した。また、科目GPAが1.95と比較的高かったため、大方の学生たちの学習に対する姿勢が良かったと言える。今後は、一人の脱落者を出さず、全員が合格できクラスを目指したい。</p>
<p>L211028 英語コミュニケーション A B3</p>	<p>①英語基礎力を確認することができます。 ②英語 4 技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際化理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組み、高等学校までの総復習をおこない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。</p>	<p>履修者数は総合経営学科 1 年生 43 名であった。前期は対面授業を、一部「公欠」の学生にはリモート(オンライン)授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度から授業時間が1時間に短縮されたので、演習課題(5分以内の小テスト)は実施せず、代わりに自宅に演習課題を持ち帰って、独力で取り組んで、次週の授業開始前に提出する方法を採用した。その結果、履修学生が毎週の学習や課題、宿題に取り組み、定期レポート試験をウェブ上で提出し、約80%の学生がこの科目に合格した。一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&amp;Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。しかし、本来の英語の授業は音声を使って、ペアワークやグループで英語を使いながら学習を進めることがほとんどできなかったのは残念であった。</p>	<p>総合評価 4.393 (4.4、4.2、4.4、4.5、4.5) 回収率 65.1% 65%以上の学生がかなり高い評価をしてくれた。 この科目は、総合経営学科1年生 43 人のうち、80%以上の履修学生が合格した。また、科目GPAが2.26と比較的高かったことは、学生たちの学習に対する姿勢が良かったと言える。今後は、一人の脱落者を出さず、全員が合格できるクラスを目指していきたい。</p>

<p>L211022 英語コミュニケーション A A1</p>	<p>①英語基礎力を確認することができる。 ②英語 4 技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際化理解など、幅広い内容に触れることができる。英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組み、高等学校までの総復習をおこない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。</p>	<p>履修者数は建築学科1年生45名であった。前期は対面授業を、一部「公欠」の学生にはリモート(オンライン)授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度から授業時間が1時間に短縮されたので、演習課題(5分以内の小テスト)は実施せず、代わりに自宅に演習課題を持ち帰って、独力で取り組んで、次週の授業開始前に提出する方法を採用した。その結果、履修学生全員が毎週の学習や課題、宿題に取り組み、定期レポート試験をウェブ上で提出し、100%の学生がこの科目に合格した。一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&amp;Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。しかし、本来の英語の授業は音声を使って、ペアワークやグループで英語を使いながら学習を進めることがほとんどできなかったのは残念であった。</p>	<p>総合評 4.675 (4.7、4.6、4.7、4.8、4.8) 回収率 88.9% 90%近くの学生がかなり高い評価をしてくれた。 このクラスは、建築学科1年生45人の履修学生全員が最後まで出席し、全員が合格した。また、科目GPAが3.60と極めてに高かったことは、学生たちの学習に対する姿勢が素晴らしかったと言える。 一人の脱落者を出さず、全員が合格した最初で最後のクラスでもあった。今後もこのようなクラスを目指したい。</p>
<p>L211024 英語コミュニケーション A D1</p>	<p>①英語基礎力を確認することができる。 ②英語 4 技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際化理解など、幅広い内容に触れることができる。英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組み、高等学校までの総復習をおこない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。</p>	<p>履修者数はスマートデザイン学科1年生40名であった。前期は対面授業を、一部「公欠」の学生にはリモート(オンライン)授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度から授業時間が1時間に短縮されたので、演習課題(5分以内の小テスト)は実施せず、代わりに自宅に演習課題を持ち帰って、独力で取り組んで、次週の授業開始前に提出する方法を採用した。その結果、履修学生全員が毎週の学習や課題、宿題に取り組み、定期レポート試験をウェブ上で提出し、100%の学生がこの科目に合格した。一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&amp;Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。しかし、本来の英語の授業は音声を使って、ペアワークやグループで英語を使いながら学習を進めることがほとんどできなかったのは残念であった。</p>	<p>総合評価 4.388 (4.4、4.1、4.3、4.6、4.5) 回収率 64.0% 60%以上の学生が高い評価をしてくれた。 このクラスは、スマートデザイン学科1年生33人のうち、約80%履修学生が合格した。また、科目GPAが2.70と高かったことは、学生たちの学習に対する姿勢が素晴らしかったと言える。今後は、一人の脱落者を出さず、全員が合格できるクラスを目指したい。</p>

<p>L211041 英語コミュニケーション C A, D</p>	<p>①英語力(語彙力、文法力、聴解力、読解力)を身につけることができる。 ②情報処理能力(英語を英語のまま素早く理解する力)を身につけることができる。 ③試験対策力(時間配分や解答アプローチなど)を身につけることができる。実用的な英語の学習(語彙力・文法力・リスニング力・リーディング力)を強化し、TOEIC550点以上をめざし、幅広い総合的な英語力を身につけることができる。</p>	<p>履修者数は造形学部(建築学科・スマートデザイン学科)2年生25名を担当した。 前期は対面授業(一部の学生はオンライン授業)であった。毎週、テキストの各パートの学習項目に従って、学習を進めた。授業終了間際に確認用の小テストを配布し、次週までに各自で取り組んで提出させた。また、学習が半分程度進むと演習課題(まどめの語彙テスト)を配布した。80%以上の学生が毎週の学習やドリルに取り組み、演習課題と定期レポート試験を受験し、約80%の学生が合格した。途中、担当教員に授業Q&amp;Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。学生の中には、途中で学習を諦めてしまう学生がいたが、全体として真面目に取り組んだ学生が多かったため、授業自体は進めやすかった。しかし、本来の英語の授業は頻繁に音声教材を使って、実際に英語を使いながら学習をすることができなかったのは残念であった。</p>	<p>総合評価 4.388 (4.4、4.1、4.3、4.6、4.5) 回収率 64.0% 60%以上の学生が高い評価をしてくれた。 このクラスは、履修学生の約80%が合格した。また、科目GPAが2.00であったので、半数以上の学生たちの学習に対する姿勢が良かったと思われる。今後は、一人の脱落者を出さず、全員が合格できるようなクラスを目指したい。</p>
<p>S211006 経営の基礎 I</p>	<p>①他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 ②経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 ③講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。 高校生から(本学)経営学部学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、経営学部学生としてのスケジュール・スキルを身につけます。</p>	<p>履修者数は経営学部総合経営学科1年の留学生18名であった。ベトナム人留学生が5人、中国人留学生が13人であった。 前期は対面授業(一部の学生にはオンライン授業)であったので、毎週の学習内容に従って授業を進めた。 課題等の提出状況は、授業の当日提出する留学生がほとんどであったが、一週間後に提出する学生が数人いた。その結果、大方の留学生が毎週の学習に取り組み、課題と宿題、および定期レポート試験をウェブ上で提出し、ほとんどの留学生がこの科目に合格した。途中、学習意欲が減退し、休学を申し出て、中国へ帰国した留学生がいた。 また、担当教員に授業Q&amp;Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してくる学生がいたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。全体として真面目に取り組んだ学生が多かったため、授業自体は進めやすかった。</p>	<p>総合評価 4.420 (4.6、4.3、4.3、4.4、4.5) 回収率 58.8% 60%近くの学生が高い評価をしてくれた。 このクラスは、履修学生18人のうち、2名の休学者を除いて、全員が合格した。また、科目GPAは2.76と比較的高かったため、全体として、学生たちの学習に対する姿勢が素晴らしかったと言える。今後は、休学をしないよう留学生の勉学上、留学生活上のケアをする必要があると思われる。</p>

<p>S211054 専門ゼミナーⅢ (新カリ)</p>	<p>経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>履修者数は経営学部総合経営学科3年生14名であった。ネパール人留学生在が7人、中国人留学生在が6人、そしてスリランカ人留学生在が1人であった。前期は対面授業(一部の学生はオンライン授業)であったので、毎週の学習内容に従って授業を進めた。また、演習課題、および宿題等の提出状況は、きちんと提出できた学生がほとんどであったが、最後の「定期レポート試験」の文字数が足らずに、合格ギリギリの得点を取った留学生在が数名いた。学期の間、直接留学生在に会ったり、電話を掛けて、課題の進捗状況や学生生活などについて聞くよう努めた。その結果、ゼミ生全員がこの科目に合格した。ただ、前期の授業料を納めていなかった留学生在が2名いて、前期の成績発表時には成績結果が判明しないという事態が起きた。</p>	<p>総合評価 4.800 (5.0、4.5、4.5、5.0、5.0) 回収率 14.3% 履修者14名のうちで2名しか回答していないので、4.8と高い評価をしてくれても、残り12人の評価が不明なので、授業全体としてあまりはっきりしない。 また、科目GPAは2.14であったので、ゼミの成績評価としてはあまり高くなかった。 このクラスは、履修学生全員が留学生在であったので、日本人学生と一緒に授業を進めることの重要性を認識することができた。 今後は、日本人学生と留学生の合同のゼミ運営ができることが望ましいと考えられる。</p>
<p>S211084 専門ゼミナールⅣ</p>	<p>企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>履修者数は経営学部総合経営学科4年生5名であった。ネパール人留学生在が1人、中国人留学生在が3人、そして日本人学生が1人であった。前期はすべて対面授業であったので、毎週の学習内容に従って進めることができた。ゼミ生が全て授業に出席してくれたので、授業をスムーズに進めることができた。また、課題等の提出状況は、締め切り直前に提出する学生がほとんどであった。その結果、5人の学生全員が毎週の学習に取り組み、課題と宿題、および定期レポート試験をウェブ上で提出し、この科目に合格することができた。</p>	<p>総合評価 4.650 (4.3、4.8、4.8、4.8、4.8) 回収率 80.0% 5人の履修学生のうち4人がかなり高い評価をしてくれた。 このクラスは、履修学生全員が合格した。 また、科目GPAが3.00と高かったことは、学生たちの学習に対する姿勢が素晴らしかったと言える。一人の脱落者を出さず、全員が合格したクラスでもあった。</p>
<p>S211098 戦略思考Ⅰ</p>	<p>与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。担当教員ごとの専門科目において必要な戦略思考能力を身につけ、総合的な視点から判断できる能力を培う。</p>	<p>コスト管理を理解するために原価計算検定初級に挑戦してもらった。計算するにあたって考えすぎる学生が多く、自信がないように思えた。そこで多くの問題をこなして自信をつけさせ挑戦してもらった。予想より合格者が多く安心した。次年度も同様の対応をしていきたい。</p>	<p>授業評価 4.440 (4.6、4.3、4.4、4.6、4.3) 回収率 75.0% 科目GPA3.0 (F以外3.0) 授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものとする。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業で個別指導の時間は必要であり、工夫したい。</p>
<p>S211055 専門ゼミナーⅢ (新カリ)</p>	<p>経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>コスト管理を理解するために原価計算検定初級に挑戦してもらった。計算するにあたって考えすぎる学生が多く、自信がないように思えた。そこで多くの問題をこなして自信をつけさせ挑戦してもらった。予想より合格者が多く安心した。次年度も同様の対応をしていきたい。</p>	<p>授業評価 4.486 (4.6、4.3、4.4、4.6、4.6) 回収率 77.8% 科目GPA3.44 (F以外3.44) 授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものとする。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。</p>

<p>S211085 専門ゼミナールⅣ</p>	<p>企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 財務会計に関する会計基準や会計の役割、業績評価を理解し、マネジメントに必要な専門的スキルの活用を目的とします。</p>	<p>国際会計に関する論文を作成すると意気込んでいたが分量が多く、その一部でも様々な問題を含んでいるため、その話をしたら、別のタイトルを考えるなど2転3転、タイトルが変わったため、完成しなかった。よって、次年度は、早めの対策を講じていきたい。</p>	<p>授業評価 4.933 (5.0、4.7、5.0、5.0、5.0) 回収率 60.0% 科目 GPA2.4 (F以外 2.40) 中途半端な答案を提出した学生が数名いたため、評価が下がった。 次年度は、定期試験前までに完成するよう徹底指導していきたい。逃げる学生が今年は多かった。 達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。</p>
<p>S211019 現代生活と会計 再履修</p>	<p>帳簿記入をする上で簿記一巡（貸借対照表および損益計算書を作成するまでの流れ）を理解することができる。 基本的な項目である現金の処理、商品売買の処理、手形の処理を理解し、会計処理することができる。 企業は、お金に関する記帳をしています。これが簿記です。この簿記は、複式簿記と呼ばれ、財産やもうけを把握します。マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけることを目的とします。</p>	<p>出席した学生は何とか単位取得できたが、欠席した学生をいかに登校されるのかが課題である。</p>	<p>授業評価 4.267 (4.3、4.3、4.3、4.3、4.0) 回収率 25.0% 科目 GPA1.33 (F以外 2.29) 再履修クラスのため、欠席者以外でも嫌いになった学生がいるので計算問題に時間をかけていきたい。 授業評価に関しては、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考ええる。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。</p>
<p>S211040 地域産業論</p>	<p>いわゆる地場産業の姿について理解することができる。 地場産業の実践例を通じて、地域の産業振興に必要なことを理解することができる。 他地域の地域産業の振興策を学ぶことを目的とする。</p>	<p>昨年は遠隔授業であったので対面での授業は初めてであった。留学生は、コロナ前にいろんな地域を刊行しているのでさまざまな地域で日本の地域活性化策が講じられていることを伝え、母国に帰っても対応できるように伝えた。</p>	<p>授業評価 4.509 (4.6、4.5、4.5、4.4、4.5) 回収率 68.8% 科目 GPA1.93 (F以外 2.48) 授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考ええる。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、留学生のため動画を見せるという時間は必要であり、工夫したい。</p>
<p>S211035 専門ゼミナールⅠ (新カリ)</p>	<p>経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てます。この関心や興味が履修モデルによる学習計画に反映され、総合経営学科の様々な分野の中から、自らの能力や適正にあった学習志向を見定めるよう支援します。</p>	<p>コスト管理を理解するために原価計算検定初級に挑戦してもらった。計算するにあたって考えすぎる学生が多く、自信がないように思えた。そこで多くの問題をこなして自信をつけさせ挑戦してもらった。 ベトナム人留学生が相当努力して、全員合格した。日本人学生は予想より合格者が多く安心した。 次年度も同様の対応をしていきたい。</p>	<p>授業評価 3.756 (3.8、3.7、3.7、3.7、4.0) 回収率 69.2% 科目 GPA1.93 (F以外 2.48) 授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考ええる。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。</p>
<p>S211017 現代生活と会計</p>	<p>帳簿記入をする上で簿記一巡（貸借対照表および損益計算書を作成するまでの流れ）を理解することができる。 基本的な項目である現金の処理、商品売買の処理、手形の処理を理解し、会計処理することができる。 企業は、お金に関する記帳をしています。これが簿記です。この簿記は、複式簿記と呼ばれ、財産やもうけを把握します。マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけることを目的とします。</p>	<p>授業内課題の提出率が低く、授業外課題も提出率がさらに低かった。そこで、終了時間の少し前に問題を解く時間を与え、未提出率を減少させたため、授業評価の改善につながった。 大半の学生が理解できたと思われるが、翌年になると忘れていくことが多いので繰り返し、復習ができるようにしていきたい。</p>	<p>授業評価 4.504 (4.5、4.4、4.5、4.5、4.6) 回収率 67.5% 科目 GPA2.93 (F以外 3.12) 授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考ええる。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。</p>

<p>S211056 専門ゼミナーⅢ (新カリ)</p>	<p>経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>対面形式で実施し、毎回全員に発言してもらおうようにした。前半は、法律の論点を全員で検討し、コメントするスキルを身につけるべく学習した。後半は、公務員試験問題などを利用して、法律の基礎問題を学習した。また、頻出のテーマを利用した論文対策では、学修スキルを高めることができた。PC等を用いて、レポート作成課題を与えたが、それぞれの書き方の欠点を把握することができ、効果的な論文指導につながったと考える。比較的多くのゼミ生がいるので、ゼミ生による発表する機会が限られたが、コメントを求めることで次第に自分の意見をいうことができるようになったと感じる。</p>	<p>授業評価 4.633 (4.7、4.3、4.7、4.8、4.7) 回収率 50.0% 科目 GPA4.00 対面形式であるため、それぞれの学習の進捗を確認することができた。難解な法律の論点では、具体例を用いて丁寧に解説するように心がけた。公務員試験対策では、間違っただけも詳細に分析することで、実力がついていっているように感じる。ゼミ生が発表する機会が少なかったため、次年度の卒業論文のテーマを考える上でも、課題を与えてその機会を増やしていきたい。プレゼン、資料収集の方法や論文の書き方は、適宜指導していきたい。</p>
<p>S211086 専門ゼミナールⅣ</p>	<p>企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけるとともに、将来のキャリアに必要な資格あるいは公務員試験対策を通じて、専門的スキルを培う。</p>	<p>対面形式で実施できたため、各ゼミ生の卒業論文の進み具合を、毎回確認しながら指導することができた。ゼミの前半は、全員に共通する労働法の分野の新聞記事や判例を検討し、後半は個別指導を中心とした。時には、最新の判例の調べ方や資料収集方法を取り上げた。それぞれが次第に、自分のテーマにつき問題点の奥深さを理解するようになったと感じる。比較的早めに卒業論文の構成を確定することで、それに伴う資料収集が効率よくできた。ところが実際に書き始めると、書き方に苦勞するゼミ生が多い。そこで、昨年度のゼミ生の卒業論文を紹介することで、少しずつ進めることができた。進捗状況をプレゼン形式で発表する機会も設けていきたい。</p>	<p>授業評価 4.750 (4.8、4.8、4.8、4.8、4.8) 回収率 50.0% 科目 GPA4.00 対面形式であるため、自由に発言してもらいながら進めることにした。ゼミ生の発表に対して、それに対してコメントすることが難しいようなので、わからない時や疑問に思った時に発言させるようにした。その結果、自らの卒業論文のためにヒントとなる作成方法を学んでいるようであった。卒業論文はできるだけ個別に対応し、文献収集方法や書き方を中心に指導した。有益な文献の収集方法については、必要に応じて情報提供していきたい。</p>
<p>S211021 企業法</p>	<p>企業法の中核をなす民法、商法と会社法の基礎知識を活用して、企業における法的トラブルの際し、企業の仕組みや規制を踏まえて正しく行動、対処することができる。ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。</p>	<p>主に民法、商法及び会社法を、企業にかかわる法分野の基礎的内容を扱った。できるだけ、身近な話題から論点の検討を行うようにした。単なる条文の紹介ではなく、立法趣旨を確認しながら、条文の意義の把握に努めた。ニュースや新聞記事が身近な話題を活用して、実際の法的問題点の解説にも時間を割いた。こうした取り組みにはおおよそ満足して受講してくれたようである。専門性が出ると難しいと感じる学生もいるので、基礎内容を何度も確認してから説明するようにしたい。</p>	<p>授業評価 4.389 (4.5、4.2、4.4、4.4、4.4) 回収率 59.0% 科目 GPA2.52 本年度より担当することになったが、できるだけわかりやすい具体例を挙げて、広範かつ難解な行政法の分野につき丁寧な解説を心掛けていきたい。企業法を取り巻く問題点について、できるだけ事例や判例を盛り込みながら、レジュメ及び授業資料を、より効果的に活用していきたい。</p>

<p>S211074 行政政策</p>	<p>行政権について理解し、国や地方自治体が行う公共政策のうちこれまでの社会政策について正しく認識し、どうあるべきかを判断することができる。ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。</p>	<p>行政政策の中でも社会政策を中心に、政策にかかわる法分野の基礎的内容を扱った。できるだけ、身近な話題から論点の検討を行うようにした。単なる条文の紹介ではなく、立法趣旨を確認しながら、条文の意義の把握に努めた。ニュースや新聞記事が身近な話題を活用して、実際の法的問題点の解説にも時間を割いた。こうした取り組みにはおおよそ満足して受講してくれたようである。4年生対象の授業であり、社会に出る前の学習として有意義な授業となるように、社会政策にかかわる様々な意見も紹介していきたい。</p>	<p>授業評価 4.407 (4.6、4.3、4.4、4.5、4.3) 回収率 44.4% 科目 GPA2.51 本年度より担当することになったが、できるだけわかりやすい具体例を挙げて、広範かつ難解な行政法の分野につき丁寧な解説を心掛けていきたい。社会政策を取り巻く問題点について、できるだけ事例や判例を盛り込みながら、レジュメ及び授業資料を、より効果的に活用していきたい。</p>
<p>S211036 専門ゼミナー I (新カリ)</p>	<p>経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。</p>	<p>対面形式で実施し、疑問や質問については積極的に発言してもらったようにした。前半は、身近な法律の論点を全員で検討し、考えを持つように指導した。後半は、公務員試験問題などを利用して、主に法律の基礎問題を学習した。時には国語の読解問題を活用して、学修スキルを高めることができた。PC等を用いて、レポート作成課題を与えたが、文のまとめ方に苦勞しているようであった。要約する技術を習得させ、論文対策につなげていきたい。適宜与えた課題は、それぞれの学習到達度を把握することができ、効果的な指導につながったと考える。比較的多くのゼミ生がいるので難しい状況であったが、ゼミ生全員による発表する機会として、グループ発表を設けていきたい。</p>	<p>授業評価 4.600 (4.9、4.4、4.5、4.6、4.6) 回収率 70.6% 科目 GPA4.00 対面形式であるため、それぞれの学習の進捗を確認してアドバイスすることができた。比較的身近な法的問題を丁寧に解説するように心がけた。公務員試験対策では、基礎学習を徹底することで、実力がついていっているように感じる。比較的人数が多く、ゼミ生が発表する機会が少なかったため、興味のある法的論点についてグループ発表を採り入れていきたい。</p>
<p>L211039 法学（日本国憲法） A, D</p>	<p>日本国憲法における基本的な知識について理解し、法的問題に際し適切な法的思考や解釈をすることができる。日本国憲法の基本精神を学び、条文の趣旨を正しく解釈することを目的とする。</p>	<p>日本国憲法を取り巻く基礎的内容を扱った。主に造形学部の学生が対象であり、法律の基礎から解説し、できるだけ身近な話題を用いて論点の検討を行うようにした。単なる条文の紹介ではなく、立法趣旨を確認しながら、条文の意義の把握に努めた。ニュースや新聞記事が身近な話題を活用して、実際の法的問題点の解説にも時間を割いた。こうした取り組みにはおおよそ満足して受講してくれたようである。課題に対する論述解答をみる限り、法的な書き方が難しいようなので、そうした指導も適宜実施していきたい。今後も基礎内容を何度も確認してから説明するようにしたい。</p>	<p>授業評価 4.331 (4.4、4.2、4.2、4.4、4.4) 回収率 66.0% 科目 GPA2.94 本年度より担当することになったが、できるだけわかりやすい具体例を挙げて、広範かつ難解な行政法の分野につき丁寧な解説を心掛けていきたい。日本国憲法を取り巻く問題点について、できるだけ事例や判例を盛り込みながら、レジュメ及び授業資料を、より効果的に活用していきたい。</p>

L211040 法学（日本国憲法） B	日本国憲法における基本的な知識について理解し、法的問題に際し適切な法的思考や解釈をすることができる。 日本国憲法の基本精神を学び、条文の趣旨を正しく解釈することを目的とする。	日本国憲法を取り巻く基礎的内容を扱った。主に経営学部の学生が対象であり、法律の基礎を確認し、できるだけ身近な話題を用いて論点の検討を行うようにした。 単なる条文の紹介ではなく、立法趣旨を確認しながら、条文の意義の把握に努めた。 ニュースや新聞記事が身近な話題を活用して、実際の法的問題点の解説にも時間を割いた。こうした取り組みにはおおよそ満足して受講してくれたようである。 判例の検討が苦手な学生もいるため、学説の説明も詳細に行っていくたい。 今後も基礎内容を何度も確認してから説明するようにしたい。	授業評価 4.318 (4.4、4.2、4.2、4.4、4.4) 回収率 61.2% 科目 GPA2.37 本年度より担当することになったが、できるだけわかりやすい具体例を挙げて、広範かつ難解な行政法の分野につき丁寧な解説を心掛けていきたい。 日本国憲法を取り巻く問題点について、できるだけ事例や判例を盛り込みながら、レジュメ及び授業資料を、より効果的に活用していきたい。
S211047 行政法	行政に関連する諸法律に共通する原理や仕組みについて理解し、住民として適切な法的行動をすることができる。 ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	行政法にかかわる広範な法分野の基礎的内容を扱った。 資料を活用して、できるだけ身近な話題から論点の検討を行うようにした。 単なる条文の紹介ではなく、立法趣旨を確認しながら、条文の意義の把握に努めた。 ニュースや新聞記事が身近な話題を活用して、実際の法的問題点の解説にも時間を割いた。こうした取り組みにはおおよそ満足して受講してくれたようである。行政を取り巻く論点が難しいと感じる学生もいるので、基礎内容を何度も確認してから説明するようにしたい。	授業評価 4.609 (4.6、4.5、4.6、4.6、4.6) 回収率 70.8% 科目 GPA2.85 本年度より担当することになったが、できるだけわかりやすい具体例を挙げて、広範かつ難解な行政法の分野につき丁寧な解説を心掛けていきたい。 行政法を取り巻く問題点について、できるだけ事例や判例を盛り込みながら、レジュメ及び授業資料を、より効果的に活用していきたい。
S211026 経営管理論	経営管理論の理論的発展過程について体系的に理解できる。 管理者の仕事・役割について理解し、企業や会社で実際にマネジメントできる。 経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報など）を活用し、管理・組織化する方法について総合的に判断できる。 経営学の基本であるヒト、モノ、カネ、情報に関する知識を主体的に学ぶことを通して、企業や会社で実際にマネジメントできるようになるための管理者の仕事・役割について学習する。	対面授業再開となったものの、月曜クラスは水曜クラスに比べて教室収容人数の少なめな教室での実施となったためか、コロナ対策公欠申請者の比率が多めで活気としては今ひとつになってしまった。 また、当初カリキュラム通りに授業が展開出来ない回が生じてしまった（水曜クラスの避難訓練の影響）のは反省点である。 他方で 2 年ぶりの対面授業となったことで、昨年度の短縮版遠隔授業に比べれば伝えたい内容は伝えやすかったとも感じた。	授業評価 4.214 (4.4、4.0、4.1、4.2、4.4) 回収率 57.9% 科目 GPA1.79 昨年度に比べて GPA 値がダウンしてしまった。A 以上取得者は多いものの、DEF 取得者も一定数存在し二極化している感があり、コロナ渦の影響で対面授業に慣れない学生の存在が伺える。 次年度 90 分授業体制に戻る場合は対応策として、その場で復習させる試みを考えてみたい。
S211027 経営管理論	経営管理論の理論的発展過程について体系的に理解できる。 管理者の仕事・役割について理解し、企業や会社で実際にマネジメントできる。 経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報など）を活用し、管理・組織化する方法について総合的に判断できる。 経営学の基本であるヒト、モノ、カネ、情報に関する知識を主体的に学ぶことを通して、企業や会社で実際にマネジメントできるようになるための管理者の仕事・役割について学習する。	対面授業再開となり、水曜クラスは教室収容人数の多めな教室での実施となったためか、月曜クラスに比べれば出席者数は多めな傾向であった。 また、授業時間帯に避難訓練を実施した回があった影響から、当初カリキュラム通りに授業が展開出来ない回が生じてしまったのは反省点である。 他方で 2 年ぶりの対面授業となったことで、昨年度の短縮版遠隔授業に比べれば伝えたい内容は伝えやすかったとも感じた。	授業評価 4.188 (4.3、4.2、4.2、4.1、4.2) 回収率 60.5% 科目 GPA1.55 昨年度に比べて GPA 値はダウンしてしまったが、昨年度は遠隔授業の影響で回答者数自体が 30%台だったことから回収率はかなり上昇している。月曜クラスに比べて A 以上取得者が少なめで、C が 36 名と突出して多く、B も多めで、月曜クラスとはかなり異なった傾向が出た。出席人数が多めな分の影響とも考えられるが、次年度に向けてクラスごとのばらつきを無くしていくための対処が必要になったと感じさせられた。

<p>S211030 専門ゼミナール (新カリ)</p>	<p>経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てます。</p>	<p>昨年度は遠隔授業主体で教育効果が実感しにくかったが、今年度は何名かコロナ感染対策による公欠申請者が出たものの、直に指導する機会が持てたことは有難い限りであった。構成メンバーが日本人・中国人・ネパール人それぞれほぼ拮抗している感じで、誰でも課題をこなせるように配慮したつもりであるが、優秀な学生にとっては物足りない所があったかもしれない。結果的に成績評価が SABC ともほぼ均等に出た形になった。</p>	<p>授業評価 4.571 (4.7、4.5、4.6、4.4、4.6) 回収率 77.8% 科目 GPA2.11 昨年度の数値よりはダウンしたものの、昨年度は遠隔授業かつメンバーが留学生大半(評価が高めに出る傾向がある)だったことから参考外といえるので、今年度の方は実感に近いと考えられる。 メンバー構成によって難易度を調整する必要がある科目であるが、優秀な学生についてはより高めの課題を与えたり、日本語能力に難があったり単位取得がおぼつかない様な学生については出来るだけ課題を単純化して自分なりに回答しやすくする等の工夫も考えていきたい。</p>
<p>S211046 現代マネジメント講義 I</p>	<p>現役経営者の講義から、将来自分が経営者・管理者に就任した時に必要な経営実践のヒントを学び取ることができる。講義の内容を理解し、講義内容の要点をノートに的確にまとめることができる。 実社会で活躍される現役経営者のお話から、経営という仕事にはどのようなことが求められるのかを学び取り、自らのビジネスパーソンとしての教養及び経営実践能力の向上に反映させることを目的とします。</p>	<p>前身の経営哲学特講より名称変更し対面授業が再開されたことで、現役経営者の貴重な話を直接学生に提供出来るようになったことは大変喜ばしく感じている。 一方でコロナ感染対策のための公欠申請を本授業も認可しているが、留学生の相当数が公欠申請を行ったため、彼らの相当数については直接話を届けるには至らなかった。 経営哲学特講時代から伝統的に留学生にとって主に日本語の読み書きの点で苦手とする科目ではあり、ビデオ視聴の方が理解し易いという事情がありそうだが、公欠申請の本来の利用方法としては疑わしい例が多くみられたことは残念である(断定も出来ないが)。本講義こそ本来の授業スタイルに戻したい講義筆頭と考える。</p>	<p>授業評価 4.235 (4.3、4.2、4.2、4.2、4.2) 回収率 58.9% 科目 GPA1.86 授業評価値自体は昨年度と変化が無いが、昨年度は全面遠隔授業かつ回収率も低かったため、今年度の方が信頼性が高いと考えられる。 GPA 平均値は昨年度よりかなりダウンしてしまっただが、例年以上に C 評価が多数出たことがそれを裏付けている。講義内容をその日のうちに提出物にまとめるという習慣がこの2年間で失われており、短縮授業体制の負の側面が出てしまったと言えよう。 本講義に関しては、経営哲学特講時代のスタイルに戻すことが切に望まれる所である。</p>
<p>S211057 専門ゼミナーⅢ (新カリ)</p>	<p>経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>一部コロナ渦の影響で遠隔授業メインの学生が出てしまったが、基本的には対面方式での実施を行うことが出来た。 留学生の方が多数派で、どちらかと言えば日本人学生よりも意欲的な印象を受けている。 ゼミに相応しいテキストが見つけられずにプリント主体になってしまった点は、ゼミ生の学習の幅を限定してしまった感があり反省材料である。</p>	<p>授業評価 4.133 (4.4、4.1、4.0、4.0、4.1) 回収率 75.0% 科目 GPA2.83 昨年度に比べると授業評価値は下がったものの、科目 GPA 値は昨年度並みを維持している。 S と A 評価で9名にもなるので一定の成果にはつながったが、テキストを固定出来なかったことで学び方の指針を定めることが学生にとってはやりづらい面が出てしまったようだ。 次年度以降は CSR 分野に限らず経営学分野を広く取り上げる予定で、それに相応しいテキスト選定を考えたい。</p>

<p>S211073 環境マネジメント論</p>	<p>企業を取り巻く様々な経営環境に対応するべく、企業に求められる CSR 基準を理解することにより、ビジネスにおける環境対応能力を養い向上させることを目標とする。 本講義では経営環境に如何に対応していくべきなのか、具体的な基準を中心に学んでいくことで、ビジネスパーソンに必要な環境への対応能力を養うことを目的とします。</p>	<p>授業開始時点では対面授業形式を再開出来ていたが、5月以降緊急事態宣言が発令されてからは4年生授業の遠隔授業化方針を受けて遠隔授業に切り替えることとなった。それ故本授業の山場とも言える回が直接学生に伝えることが出来なかったことは残念である。 遠隔授業においては授業で活用するパワーポイント資料に音声を入れて解説することで、画面だけの単調さを少しでも払拭することに努めた。</p>	<p>授業評価 4.200 (4.3、4.1、4.3、4.2、4.2) 回収率 54.2% 科目 GPA2.27 授業評価値は昨年度と変わらず、GPA 値も改善した。 回答者数は多いとは言えないが、昨年度の27%よりはかなり回復している。 少しだけでも対面授業が再開出来たことと、遠隔授業に移行しても音声解説を取り入れた点が寄与したのかは分からないが、科目自体が今年度限りなのが惜しくなる所である。</p>
<p>S211087 専門ゼミナールIV</p>	<p>CSR 関係の問題に関連したテーマを自ら制定し、そのテーマを調査・研究し解明していく。それによって社会に真摯に仕える能力を身につけることができるようになる。 CSR 関連の学習の成果として、CSR や「企業と社会」絡みの分野の範囲内で各自卒論テーマを制定し、卒論作成への準備を進めることを目的とします。そして社会に真摯に仕える能力を身につけてもらいます。</p>	<p>一部コロナ渦の影響で遠隔授業主体の学生が出てしまったものの、対面授業メインで再開することが出来た。 昨年度のゼミメンバーは意欲的とはいえない者も多かったが、今年度メンバーは比較的眞面目な者が多いので、その意味では気楽である。 ただ、留学生が多く、日本語に不慣れな点が、卒論作成が本格化してきた際に影響しかねない不安も感じている。</p>	<p>授業評価 4.650 (4.5、4.6、4.6、4.9、4.6) 回収率 72.7% 科目 GPA2.82 昨年度に比べると授業評価値・GPA 値とも大幅に改善がみられたが、今年度のゼミメンバーは昨年度に比べて眞面目な者が多いことが影響していると考えられる。 卒論への取り組み具合という点では各自それなりであるが、参考図書の購入という点では未だ腰が重い傾向があり、課題の一つとして残る。</p>
<p>U211001 産業クリエーション 基礎 高大連携</p>	<p>①三河地域に関する伝統的なものづくり産業と現在の最先端技術の繋がりについて理解することができる。 ②三河地域の伝統的なものづくりとのその構造変化について理解することができる。 本大学がものづくりを通して地域と密着していることを理解し、自分が地域に何で貢献できるかを探り入学後に本学を通じて実現することを目標とします。地元三河地方について学習・理解することを目的とします。</p>	<p>昨年度の「地域クリエーション基礎」は中止となったが、今年度の高大連携授業は緊急事態宣言下であるにも関わらず無事開講することが出来た。 ゲストスピーカーを招いての講義、学外見学(今年度は博物館明治村)も例年と同様に開講できた。 ただ、感染対策として、例年よりは定員を絞る形での実施となったが、その分本当に参加意欲の高い生徒達に参加してもらえたので、例年以上にやり甲斐が高かったと感じた。</p>	<p>高校生対象の授業のため授業評価アンケートの数値無し。 科目 GPA2.86 まず今年度のプログラムを無事終了できたことに安堵しているが、次年度以降に感染状況の改善が見られれば定員の拡大が想定されるので、相応の準備対応が必要になると考えられる。</p>
<p>S211097 戦略思考 I</p>	<p>与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。 他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。 現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。 担当教員ごとの専門科目において必要な戦略思考能力を身につけ、総合的な視点から判断できる能力を培う。</p>	<p>今年度から開始となった授業で、筆者のクラスではSDGsをテーマに具体的な活用プランを考えるという内容でグループワーク中心に展開した。 正直な所大まかな方針しか示されなかったので手探りのまま進めていった感があったが、意外と楽しんでワークを進める者が多かったことは幸이었다。 普段は孤立気味な学生もこの授業に関しては他学生と協力し合う姿を見せ、また日本人と留学生の混成チームも出来たりした。反面コロナ渦の影響で公欠申請した者も出たことからグループ全員がそろわずにグループ自体を分割せざるを得ない場面もあった。 総じて自分達の好きなように取り組むと結構熱心に成果を出していくことは新鮮な驚きだったといえる。</p>	<p>授業評価 4.700 (4.8、4.7、4.7、4.7、4.8) 回収率 44.4% 科目 GPA2.67 履修学生に留学生が多かったことで、日本語能力の関係から難易度は正直低めの設定ではあった。そのお陰か一定の成果は出たと考えられるが、優秀な日本人学生にとっては物足りなさが出てくるかもしれない(今年度はそれ程突出した学生は見当たらなかったが)。 また、人数が少なければパワーポイントを利用して発表させたかった所であるが、今回は履修者数が多めで断念した。 履修者数によってはパワーポイント資料の活用も考えていきたい。</p>

S211041 簿記Ⅱ	会計専門用語や仕訳を理解することができる。貸借対照表・損益計算書・株主資本等変動計算書等を作成することができる。	日商簿記検定 2 級レベルの商業簿記を修得することを目標とする科目である。学習内容が多いにも関わらず、対面授業時間が短縮されているので、テーマを絞り、パワーポイントで説明を行った。学生が実際に解く問題量も減り、理解が十分でなかったように思われる。	授業評価 3.99 (4.0、4.0、4.1、4.1、3.8 ) 回収率 77.5% 簿記の習得には、数多く問題を解くことが必要である。学生が自分で問題を解く時間を確保できるよう、工夫をしていきたい。
S211099 戦略思考Ⅰ	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。	新カリキュラムの科目である。テキストをもとに、企業の決算書から、その企業の戦略やビジネスモデルを探る授業を行った。受講者が、会計に関心をもっており、また少人数であったこともあり、お互いにコミュニケーションを取りながら授業を進めることができた。	授業評価 4.60 (4.7 4.3 4.7 4.7 4.7) 回収率 75.0% 企業の戦略を探るにあたり、認知度の高い企業を対象とすることで、学生の関心と理解を得ることができたように思われる。また、学生とのコミュニケーション及び学生同士のコミュニケーションが取れたことで、学習理解が進んだように感じた。次年度においても、意見をいえる雰囲気づくりに努めたい。
L211007 スタディスキル B2	①効果的にノートを取り、授業で学んだ知識を後から自分で再現できるようになる。 ②レポートやプレゼンテーション用のレジュメやスライドの構成を自ら考え、形式ののつとしてそれらを作成することができる。 ③図書館やインターネットを利用して課題に関連する情報を収集し、整理することができる。	スタディスキルの授業では、自己紹介、本学の施設紹介、ノートの取り方、文章の要約、レポートの作成について学習した。授業内容によっては、総合経営学科の他の科目（経営の基礎Ⅰ、情報リテラシーなど）と重なるところがあるが、学生が今後の学習で必要となるスキルであるので、重複して学習した。文章の要約とレポート作成の授業では動画を視聴させるなど授業内容が単調にならないよう工夫した。授業全体を通して、大部分の受講生は熱心に取り組んでいたと思われる。	授業評価 4.00 (4.0、3.8、4.0、4.0、4.0) 回収率 82.7% ノートの取り方やレポートの作成方法などを身に付けるためには、対面授業による細かな指導が必要であると思われる。今年度は、短縮ではあるものの対面による指導ができ、授業内容は概ね学生に受け入れられたように思われる。
S211058 専門ゼミナーⅢ (新カリ)	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	実際の企業の財務諸表をもとに財務分析を進めようとしたが、ゼミメンバーの会計知識の差が大きく、進められなかったため、上場企業の決算書を読むのに必要な会計知識を補うよう、輪読を行った。学生のプレゼンテーションに関する補足資料を用意し、時間をかけて解説をし、理解を深められるよう努めた。	授業評価 4.68 (4.8 4.8 4.6 4.6 4.6 ) 回収率 83.3% ゼミナールのメンバーにあわせ、授業の進め方を変更したことが、授業評価につながったと考えられる。今後も、細やかな対応を心掛けていきたい。
S211088 専門ゼミナーⅣ	財務会計に関するテーマ設定、テーマに沿った資料収集・文献読解、卒業論文の作成をとおして、財務会計を体系的に理解できる。	昨年度のゼミナールは遠隔で実施されたこともあり、種々の指導が十分にできなかったように思われる。ウェブ上の資料の切り貼りで論文を作成しようとするので、論文のストーリーの立て方や、資料収集、文献読解についての丁寧な指導を心がけた。時間をかけて、何度もやり直しをさせ、毎週報告するという形式をとった。受講者どうしで議論することもできた。	授業評価 4.33 (4.7 4.7 4.0 4.3 4.0) 回収率 37.5% 授業内容および授業方法は、受講者に概ね受け入れられたように思われる。今後も、こまめな対応を心掛けていきたい。

S211096 非営利組織会計	公益法人の特徴や公益法人特有の会計処理を理解し、貸借対照表・正味財産増減計算書等を作成することができる。	非営利組織の会計について、営利組織の会計と比較しながら学んでいく科目であるため、学習するにあたり、営利組織会計の十分な知識が必要となる。しかし、卒業要件を満たすために受講する学生がほとんどであるので、営利組織と公益法人の組織の特質の相違や、簿記の初歩の部分について、丁寧な説明を心掛けた。	授業評価 4.50 (4.8 4.3 4.3 5.0 4.3) 回収率 40.0% 受講生が少なく、回収率が低いことから、高い授業評価を得たと考えられる。 今年度で最後の開講科目となった。
S211015 経営の基礎 I	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	本学の施設等の案内などからなる“大学生入門”から初めて、外部講師によるキャリア形成に関する授業および経営学の入門の授業を行った。 種々の分野の講師が授業を行うことで、いわゆる経営学だけではなく、様々な側面から学習することができた。 大人数での授業であったため、個々の学生に十分に対応することができなかつたように思われる。	授業評価 4.54 (4.7 4.2 4.5 4.7 4.5) 回収率 81.0% 授業内容について、受講生に概ね受け入れられたように思われる。 次年度は、授業内容や授業の進め方を工夫し、個々の学生に十分に対応する時間を確保していきたい。
S211018 現代生活と会計 商教必	帳簿記入をする上で簿記一巡（貸借対照表および損益計算書を作成するまでの流れ）を理解することができる。 基本的な項目である現金の処理、商品売上の処理、手形の処理を理解し、会計処理することができる。	簿記の経験者も多く、そうした受講生にはたるといえる授業になるが、他方で留学生や簿記の初学者も多いので、言葉をできる限りはっきりとし、丁寧な説明を心掛けた。 簿記は理解するだけでなく、演習問題を繰り返し実施しないと身につかない科目であるが、短縮授業の中で、十分な演習時間を取ることの難しさを感じた。	授業評価 4.20 (4.4 4.1 4.1 4.2 4.1) 回収率 80.0% 簿記は、勘定科目を言語として用いている。 勘定科目を理解すれば、ほぼ全てのことが理解できる。勘定科目は、漢字を見れば、おおよその意味はわかるものであるが、近年は、非漢字圏の留学生が増えているため、理解が難しくそうである。用語の意味の説明等に時間がかかり、やはり演習問題を解く時間の確保が難しいが、できる限り、時間の確保に努めていきたい。
S211044 ベンチャー論	ベンチャーの起業から成長に至る過程を理解することができる。 ベンチャー企業の地域への貢献と事業リスクについて理解することができる。 ベンチャー企業の成長マネジメントについて学習することを通して企業経営に関する理解を深める。	アントレプレナーシップ教育は、どのような職業に就くにしても重要なテーマであり、企業家精神を身につけられるよう、多くのベンチャー企業や起業家の事例を扱った。 一方向にならないよう、都度学生に問いかけることを心がけたが、受講生が多数であったこともあり、講義形式の授業となってしまった。	授業評価 4.29 (4.4、4.2、4.1、4.3、4.2) 回収率 58.3% 受講生が多数となっても、双方向の要素を取り入れられるよう、工夫したい。
S211102 戦略思考 I	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。 他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。 現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。 戦略思考能力を身につけ、総合的な視点から判断できる能力を培う。	多くのケースを通じて様々なビジネスの現状に触れるとともに、受講生自身が経営戦略の基本的な思考法を使ってそれぞれが選択したケースの分析とプレゼンテーションを行なった。 発表では、受講生間の議論も促した。受講生のほとんどが、自分が選択した企業について自分なりに調査・分析し、自分の意見を発信することができた。	授業評価 4.614 (4.8、4.6、4.4、4.6、4.6) 回収率 70.0% 今年度は個人での作業となつてしまったので、次年度はグループワークを取り入れたい。

<p>S211069 ケース・スタディ</p>	<p>現代企業の事例分析を基に、その成功要因や失敗要因を論理的に理解することを通じて、企業や会社で実際にマネジメントできる。 経営学の基本であるヒト、モノ、カネ、情報に関する知識を主体的に学ぶことを通して、企業や会社で実際にマネジメントできるための戦略・組織・管理方法について現代企業事例から学習する。</p>	<p>多くのケースを通じて様々なビジネスの現状に触れるとともに、受講生自身が経営戦略の基本的な思考法を使ってそれぞれが選択したケースの分析とプレゼンテーション資料の作成を行なった。途中、遠隔授業に切り替えたため、発表の機会を作ることができなかったが、各自が具体的ケースに基づいてマネジメントの実態を理解することができたと考える。</p>	<p>授業評価 4.475 (4.8、4.5、4.4、4.4、4.4) 回収率 25.0% 旧カリ科目の最終であったため、来年度以降、この科目はなくなるが、来年度以降もそれぞれの科目で多くのケースを取り入れた内容とし、学生の理解を深めていきたい。</p>
<p>U211015 未来産業ワーク</p>	<p>産業とデザインの関係性を理解し、説明することができる。モノづくりの先にあるサービスの創成の必要性を理解し、説明することができる。 新しい市場と産業の在り方について、自分の考えを提案することができる。 愛知県内の企業・団体を題材として地域産業の課題解決に取り組むことにより、新しい市場と産業の在り方について、自ら考える力の養成を目指す。</p>	<p>愛知県内の企業・団体を題材として地域産業の課題解決のための提案を、グループごとにまとめた。 受講生からは、地域産業に関する学びのみならず、グループワークを通じて、「自分の意見を主張すること大切さ、メンバー間の関係をどのように構築するか、現場からの情報収集の重要性」など、多くの学びがあったとの指摘があった。 これらのことから、グループワークを通じて一定の学びがあったと考える。</p>	<p>授業評価 4.6 (4.8、4.3、4.5、4.8、4.8) 回収率 80.0% 次年度は、現場からの情報収集の機会や、授業内でまとめた提案を何らかの形で発表する場を設けていきたい。</p>
<p>S211064 専門ゼミナーⅢ (新カリ)</p>	<p>経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>教員がテーマを設定し、そのテーマに沿ってグループで調査・発表させた。グループメンバーの編成から、学生自身で行うよう促したが、グループワークの経験のない学生ばかりで困難であった。 しかしながら、個人の作業とならないよう、1つの模造紙を活用するなど工夫し、少しずつではあるがゼミ生どうしがコミュニケーションを図ることができたと考える。</p>	<p>授業評価 4.429 (4.7、4.1、3.9、4.7、4.7) 回収率 77.8% 次年度は、グループワークをより多く取り入れて、コミュニケーション能力の向上を図ってきたい。</p>
<p>S211039 専門ゼミナーⅠ (新カリ)</p>	<p>経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。</p>	<p>受講生が少なかったため、他の学生とのコミュニケーションの機会がなかったことが、非常に残念であった。 しかしながら、個人でコツコツと調査・分析し、それらを発表する機会を多く設けたため、プレゼンテーション能力の向上は図れたと考える。</p>	<p>授業評価 5.00 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 100.0% 次年度は、現場からの情報収集の機会を設けていきたい。</p>

<p>L211059 スポーツ A B</p>	<p>達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索する。</p>	<p>種目としては硬式テニスを実施した。履修者数は14名であり、使用するコート数に対して適正な人数であった。 授業方法としては、対面(実技)が60分、UNIPAを介したオンライン課題(30分)を合わせた内容で実施した。対面(実技)では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することを目指し、基本的な技術・理論を解説し、実践した。そして、解説した内容を受講ノートとしてまとめ、UNIPAから提出することで理解を深めることを目指した。技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、対面(実技)の時間配分を増やすことが、技術の理解と実践には必要であると感じた。ただし、感染予防の観点から、対面授業で行うことについては、今後さらに工夫して実施することが必要である。</p>	<p>授業評価 4.2 (4.6、3.9、3.9、4.3、4.3) 回収率 77.8% 授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、概ね達成目標を達成することができたのではないかと考える。 達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、状況に合わせ、対面とオンラインを併用しながら、授業展開できるように工夫していきたいと考えている。</p>
<p>S211022 スポーツビジネスとマーケティング</p>	<p>スポーツビジネスへの対応を念頭においたマーケティングのあり方を理解できる。 実際に行われているマーケティング活動に対して関心を持ち、自分自身でスポーツマーケティング戦略を考えることができる。 スポーツ事業を企画・提供する基本的な内容を理解し、実践することができる。</p>	<p>経営分野の中でも、スポーツに関する内容について取り扱う科目となる。 主に、ビジネスおよびマーケティングにおける基礎的な内容をスポーツに照らし合わせて内容を構成した。1年次における経営に関する基礎知識を踏まえた内容となるが、それらの理解度により、評価に差が出たと感じている。それまでの他の科目でも取り上げられた内容をスポーツ関連のもので考えることで、一般的な経営とスポーツの経営の共通する点や異なる点など、それらを理解した上で、スポーツの経営を捉えられるように工夫した。 これらの点でスポーツに関する経営への理解度は、深まったと感じている。</p>	<p>授業評価 4.2 (4.3、4.0、4.0、4.2、4.2) 回収率 60.8% 授業方法として、全ての回を原則対面とし、希望者には遠隔対応にて実施した。授業資料や課題の内容等について、対面時と遠隔対応の内容を維持するように意識した。 達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要だと考える。 今後は対面授業の内容を工夫し、より理解が深まるようにしていきたいと考えている。</p>
<p>S211072 フィットネス演習</p>	<p>達成目標 ①体力の診断と問題解決の方策を助言できる能力を身につける。 ②身体状況と体力的特性に応じて適切な運動プログラムを作成できる。 ③安全で効果的な運動プログラムの実践に必要な知識と技能を身につける。プログラマーの実践能力を身に付け、スポーツマネジメントの現場で活躍する能力を養成する。</p>	<p>フィットネスの科学における、体力の概念やその診断、運動プログラムの作成のための基礎知識を踏まえ、演習形式を取り入れた実践的科目である。 主に、各年代における運動プログラムの作成や運動指導の現場にて必要な内容を取り扱った。 履修者は主に、運動指導を受ける側の立場であることから、運動指導を処方する立場として注意すべき点については、実際の指導場面を思い浮かべながら、より理解が深まったのではないかと感じている。</p>	<p>授業評価 4.7 (4.7、4.7、4.7、4.7、4.7) 回収率 25.0% 授業評価回収率が25%であり、全体の評価を反映したものは捉えられないが、回答した者については、概ねよい評価であった。 新カリキュラムにおいては、本科目は開講されないが、同様の内容の科目を開講する際には、これまで主に運動指導を受ける側であった履修者が、自身または他社へ運動処方をすることを意識させ、実際の現場での話題も取り入れながら、運動を指導する立場の視点を身につけられるよう、実践的な内容をより多く取り入れていくことを検討したい。</p>

<p>S211038 専門ゼミナー I (新カリ)</p>	<p>経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。</p>	<p>教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。 主に、読む、書く、まとめる、といった学修スキルに加え、PC等を用いたレポート作成やプレゼンテーション資料の作成を行った。 レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していたと感じている。 また、PCスキルについても同様で、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。</p>	<p>授業評価 4.6 (4.8、4.4、4.4、4.6、4.6) 回収率 62.5% 対面形式でのゼミナールを実施することができたことから、解説と課題作成、PCスキルについての理解を深めることができるように工夫した。 少人数ではあるが、今回、課題の難易度については若干高いものを選択した。 PCの所有やスキルに差があり、実際にPCを操作する機会は少ない学生にとっては難しい課題であった可能性もある。 今後は、難易度の高い課題を取り入れる際には、履修者の思考力や読解力、PCスキルの状況を見極め、解説等の量を増やし、理解度の向上につなげていきたいと考えている。</p>
<p>S211062 専門ゼミナー III (新カリ)</p>	<p>達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。経営学について多角的な観点から学習し、より専門的な経営学的思考能力を身に付けます。ビジネスパーソンに必要なスキルと知識を理解していく。</p>	<p>教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。 主に、読む、書く、まとめる、といった学修スキルに加え、PC等を用いたレポート作成やプレゼンテーション資料の作成を行った。 レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していたと感じている。 また、PCスキルについても同様で、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。</p>	<p>授業評価 4.4 (4.8、4.2、4.5、4.7、4.0) 回収率 60.0% 対面形式でのゼミナールを実施することができたことから、解説と課題作成、PCスキルについての理解を深めることができるように工夫した。 少人数ではあるが、今回、課題の難易度については若干高いものを選択し、卒業論文執筆へと繋がるように課題を設定した。 PCの所有やスキルに差があり、実際にPCを操作する機会は少ない学生にとっては難しい課題であった可能性もあるが、今後は、これらの課題の成果を活かし、卒業論文執筆につなげていきたいと考えている。</p>
<p>S211092 専門ゼミナール IV</p>	<p>達成目標 体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。 体育・スポーツを経営学、経済学、社会学、健康科学、医学といった様々な視点から捉え、社会における体育・スポーツの意義を考え、問題点を分析し、解決策を探求していく。</p>	<p>対面授業で実施する事が可能となり、前半は卒業論文の各自のテーマに沿った資料収集と資料分析を行った。そして、収集した資料についてまとめ、発表するための資料作成を行った。 後半は、収集した資料をもとに、卒業論文のアウトラインを作成し、執筆を開始した。 また、定期的に卒論指導や就職活動の状況確認を行った。資料収集に苦勞する者もいたが、文献検索の方法の指導や参考資料を提供することで、資料収集のスキルはある程度身についたと思われる。しかし、収集した資料を読解し、精査することについては、もう少し時間をかけて取り組めるようにした方が良かったと感じている。 また、これまでも繰り返し行ってきたプレゼンテーション資料の作成や、発表については、当初に比べ向上していると感じている。</p>	<p>授業評価 5.0 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 14.3% 対面でのゼミナールと言うことで、解説と課題作成、卒業論文の執筆を効率良く進めることができるように工夫した。 個別に指導する機会を多くし、卒論に関する内容説明を時間をかけて解説することを心がけた。 今後も個別指導の機会をできるだけ多くとるように心がけ、卒業論文の執筆につなげていきたいと考えている。</p>

<p>L211032 日本語中級</p>	<p>基本的なやりとりを超える程度の日本語を運用することができる。 日本語能力試験N2 以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。 日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。 以上 3 点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。</p>	<p>学生が私語などに走らない魅力ある授業運営を心がけた。指定テキストがあるが、ただそれを全員で読み、答え合わせするだけでは魅力ある授業運営とは言えない。したがって、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりした。 また、日本語能力試験の出題範囲を常に意識した発話を行った。さらに非漢字圏の学生が不利にならないように、難度の高い漢字語は大きく板書し、ふりがなをつける工夫を怠らなかった。総じて前年度よりも手ごたえのある授業となった。</p>	<p>授業評価 4.923 (5.0、4.8、5.0、4.9、4.9) 回収率 72.2% 自己評価のみではなく、学生たちからも高い評価を得たと言える。だが、慢心は禁物であり、まだ改善しなければならない点がある。特に「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学ぶという点に関しては、一層努力しなければならないと感じている。 また、受講生の全員が7月の日本語能力試験 N2 を受験したわけではなく、この点については参加意欲を掻き立てる工夫の必要性を感じている。</p>
<p>L211033 日本語上級</p>	<p>日常的な場面だけでなく、より幅広い場面で使われる日本語を運用することができる。 日本語能力試験N1 以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。 日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。 以上 3 点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な優れた日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。</p>	<p>学生が私語などに走らない魅力ある授業運営を心がけた。指定テキストがあるが、ただそれを全員で読み、答え合わせするだけでは魅力ある授業運営とは言えない。したがって、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりした。 また、日本語能力試験の出題範囲を常に意識した発話を行った。さらに漢字圏、非漢字圏の学生を問わず、難度の高い漢字語の習得にチャレンジさせた。総じて前年度よりも手ごたえのある授業となった。</p>	<p>授業評価 4.689 (4.6、4.7、4.7、4.7、4.8) 回収率 54.5% 自己評価のみではなく、学生たちからも高い評価を得たと言える。だが、「日本語中級」に比べると授業評価が低いのは事実であり、その理由について冷静に分析する必要性を感じている。 また、受講生の全員が7月の日本語能力試験 N1 を受験したわけではなく、この点については参加意欲を掻き立てる工夫の必要性を感じている。</p>
<p>L211034 現代日本の文化研究</p>	<p>レベルの高い日本語の文章に向き合い、その内容や論理展開についてより深く理解することができる。 読解力の基礎となる語彙力と文法力を増強し応用力を養うことができる。 現代日本の文化についての理解を深めることができる。 以上 3 点を到達目標としている。上記の目標に沿うべく、現代日本の企業社会で使われる独特の日本語表現を学ぶことを教育効果としている。</p>	<p>履修者は全員日本語能力試験 N1 合格者またはそれに相当する能力の保持者。したがって、難度の高い内容についても板書を通じて積極的に取り上げた。その具体例として、多くの諺・慣用句や「稟議書」「根回し」といったビジネス用語を紹介し、丁寧に解説した。 一方的な授業展開に陥らないように、学生たちとの一対一でのコミュニケーションを常に心がけた。学生は中国出身者及びベトナム出身者だったので、彼らの文化と日本文化との類似点、相違点に着目するような指導も行った。</p>	<p>授業評価 4.480 (4.8、4.4、4.4、4.6、4.2)、 回収率 100.0% 自己評価のみではなく、学生たちからも高い評価を得たと言える。だが、「日本語中級」「日本語上級」に比べると授業評価が低いのは事実であり、その理由について冷静に分析する必要性を感じている。 企業社会で使われる日本語は留学生はもとより日本人学生にとっても馴染みが薄く、またレベルの高さも際立っている。学生たちの集力が切れないように工夫を凝らしていきたい。</p>
<p>L211049 キャリアデザイン I</p>	<p>自己のこれまでの経験・学びについてまとめ、伝えることができる。 自分軸を形成することができる。 自己に必要な知識や能力が認識できる。 以上 3 点を到達目標としている。学科の学びに関係した仕事について理解し、就職活動の準備をすることを教育効果としている。</p>	<p>今年度初めて担当した科目であり、試行錯誤の連続であった。ただ、日頃から学生たちのキャリア支援に取り組んでいるためさまざまな経験を積み重ねてきており、その成果を授業に反映させることは、ある程度できたと思う。特に模擬面接授業については、数多くの外部講師全員を自分一人で手配し、彼らとの連絡も怠らなかった。学生たちは社会の第一線で活躍している方々と一対一で話をする機会に恵まれ、大きな収穫を得たと感じている。 大教室での授業だったが、出席確認等の作業が効率よくできた。そのため相当程度スムーズな授業運営ができた。</p>	<p>授業評価 4.397 (4.5、4.3、4.3、4.5、4.4) 回収率 78.5% 自己評価のみではなく、学生たちからも高い評価を得たと言える。ただ、参加意欲の高い者とそうでない者との開きがあり、後者に対するサポートについてはまだまだ工夫していかなければいけないと感じている。 また、模擬面接授業においては遅刻者や欠席者が目立ち、外部講師の一部から指摘を受けたことも肝に銘じておきたい。</p>

<p>S211002 異文化理解</p>	<p>国際ビジネスの素養として、自国の文化とは異なる諸文化についての理解を深めることができる。様々な国・地域の文化の共通点・相違点を把握し、諸文化を尊重する態度を養うことができる。以上2点を到達目標としている。上記の目標に沿うべく、様々な国・地域の文化について学ぶことを教育効果としている。</p>	<p>経営学部総合経営学科の1年留学生全員と3年留学生の一部が履修した授業であり、彼ら自身が日本という異文化空間の中で生活しているため、授業自体はやりやすかったと言える。中国の学生たちは他国の学生たちに向かって自国の文化について解説する、ネパールの学生たちは他国の学生たちに向かって自国の文化について解説する、例えばそのような工夫をこらして、授業が盛り上がるように心がけた。一言で文化と言ってもさまざまだが、特に言語分野には力点を置いた。その結果、世界の多くの言語の挨拶言葉を紹介することができた。総じて、学生たちの参加意欲は高かったと感じている。</p>	<p>授業評価 4.774 (4.9、4.7、4.7、4.8、4.8) 回収率 63.9% 自己評価のみではなく、学生たちからも高い評価を得たとと言える。ただ、異文化理解を実現するために越えなければならない高いハードル、即ち多様な価値観の相互尊重にまでは授業内容が及んでいないと自覚している。この点を忘れることなく、次年度の授業に臨みたいと思う。</p>
<p>S211004 経営の基礎 I</p>	<p>他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードについて総合的に判断できる。以上の3点を到達目標としている。高校生から大学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生生活を送れるように、大学生としてのスチューデント・スキルを身につけることを教育効果としている。</p>	<p>担当する学生は全員が留学生だったが、日本語能力には相当の開きがあった。1年生もいれば過年度生もいた。出身国は主に中国、ベトナム、ネパールだが、ともすれば自国人同士でかたまって私語に走る危険性があった。これらの点に留意して、一人一人に気を配るような授業運営を心がけた。課題提出はすべてオンライン形式としたが、実際の授業に参加しないと興味が湧かないような課題内容であった。したがって、全体の出席状況は悪くなかった。総じて、学生たちの参加意欲は高かったと感じている。</p>	<p>授業評価 4.471 (4.7、4.3、4.4、4.5、4.4) 回収率 89.5% 自己評価のみではなく、学生たちからも高い評価を得たと言える。だが、彼らが本当に基礎的な学力を身につけることに成功したのかという点になると、まだまだ納得できる状況ではない。折に触れて、既習項目の振り返りを行う必要性を感じ、実践していくつもりである。</p>
<p>L211055 中国語 A</p>	<p>中国語の発音、基本的な文法を学習するとともに、実践的な状況、例えば「中華料理を食べる」をテーマに実践的な会話能力を磨きます。語彙力と表現力を養い、基礎会話能力を養成します。同時に、中国社会への理解を深めるとともに、中国語学習への意欲向上を図り、「中国語」の基礎固めを行います。中国語の発音構造や特徴を理解し、簡単な挨拶表現ができる。中国語の基礎的な会話をする事ができる。中国語の側面にある文化を学習し、中国社会への理解を深めることができる。</p>	<p>全て対面授業で実施した。経営学部対象のクラスで、昨年の一部遠隔授業実施した授業よりも学びやすいように、また対面で来れない学生には本来対面授業で使う予定であったPPT資料をUNIPAの授業資料で配信し、また教科書、付属のCDと併せて学習する方法で実施した。語学では遠隔授業は対面授業にはかなわないことを実感した。</p>	<p>評価 4.599 (4.5、4.5、4.5、4.6、4.6) 受講者 43人 回収率 79.1% 昨年度の授業(遠隔授業)改善アンケートの結果より高い評価になり、回収率もアップとの結果になった。語学では遠隔授業は対面授業にはかなわないことを実感した。今後も受講者全員参加型の授業ができるように工夫していきたい。</p>
<p>L211054 中国語 A</p>	<p>中国語の発音、基本的な文法を学習するとともに、実践的な状況、例えば「中華料理を食べる」をテーマに実践的な会話能力を磨きます。語彙力と表現力を養い、基礎会話能力を養成します。同時に、中国社会への理解を深めるとともに、中国語学習への意欲向上を図り、「中国語」の基礎固めを行います。中国語の発音構造や特徴を理解し、簡単な挨拶表現ができる。中国語の基礎的な会話をする事ができる。中国語の側面にある文化を学習し、中国社会への理解を深めることができる。</p>	<p>全て対面授業で実施した。昨年の一部遠隔授業実施した授業よりも学びやすいように、また、対面で来れない学生には本来対面授業で使う予定であったPPT資料をUNIPAの授業資料で配信し、また、教科書、付属のCDと併せて学習する方法で実施した。語学では遠隔授業は対面授業にはかなわないことを実感した。</p>	<p>評価 4.67 (4.6、4.6、4.7、4.8、4.7) は昨年の4.4より高くなった。受講者は40人。回収率は、昨年の21%の低い回収率より今回は60%との結果になった。今後、授業改善アンケートの結果などを参考にして、最善の授業方法を検討し、授業を実施するよう努める。語学の授業では受講者全員参加型の授業ができるように工夫していきたい。</p>

<p>S211037 専門ゼミナー I (新カリ)</p>	<p>経営上の様々な事象に自ら問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。</p>	<p>12名のゼミ生、4名公欠申請で、本来、対面授業でゼミ生が少人数だからこそ交友関係を広げることができなかった。学生一人一人の関心があること、経営への興味や関心の度合、学生の理解度を確認しながら指導する予定であったが、公欠申請による遠隔授業受講学生が使いやすい SNS ツールでコミュニケーションを取った。また、個別指導や退学意向のあるゼミ生も一緒に前期の学習を終えられたことを評価したい。</p>	<p>評価は昨年度の 5.0 よりかなり低い評価 4.05 (4.0、4.0、4.0、4.1、4.1) でした。 12 人のゼミ生のうち、7 人が回答した。回収率は 58.8% 低い評価だったが、ゼミ生全員の回答ではなかったため、全員が納得した授業になったとは言い切れない。 今後も個々の学生へのきめ細やかな指導ができるよう心がけると同時に、授業内でゼミ生全員に疑問を共有し、共に考え、教え合うことを遠隔授業でもできるように工夫して行く。</p>
<p>専門ゼミナール III</p>	<p>経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。</p>	<p>今年度は対面授業で実施した。毎回の授業内容への理解を深めるため、各自が感心を持つテーマについて主体的に調べさせ、考えてきたことを学生同士使いやすい SNS ツールを使って、ゼミ以外の時間もゼミ生とのコミュニケーションを取りながら、一人一人が学習面で困っていることに応え、学生生活を少しでも楽しく学習を続けるための意欲を持ってもらえるように、学生に寄り添うことに努めた。</p>	<p>昨年の評価 4.8 より少し高くなって 4.98 (5.0、4.9、4.9、5.0、5.0) でした。 ゼミ生一人除いて、全員回答してくれた。回収率は 87.5% でした。 まじめに取り組んでいたのはゼミ生で、なかなか積極的に動かさず、やる気を出させるために、興味が持てるような授業内容を工夫し、ゼミ生一人一人へのきめ細やかな指導ができるよう心がける。</p>
<p>S211089 専門ゼミナール IV</p>	<p>日中間の文化的差異を深く理解し、中国をより深く知るための方法を身につける。 自分で選択したテーマの研究成果を卒業論文にするための準備ができるようになる。 ビジネス場面におけるプレゼンの前の段階として様々な前準備のやり方が身につく。</p>	<p>学生に個別指導をした。卒業論文の作成準備が主体となるが、各ゼミ生がこれまで学習してきたことを踏まえ、各自で自分が一番関心のあるテーマを選択、設定させ、卒論の進捗状況の報告と提出をさせ、ゼミ指導以外に時間を、LINE グループ通話でディスカッションを行いながら、研究を進めさせた。ゼミ生一人一人へのきめ細やかな指導には努めた。</p>	<p>評価は 4.967 (5.0、4.8、5.0、5.0、5.0) でした。 履修者は 7 名で、授業評価回収率は 100%。高い回収率で、一人だけはすべての評価項目で低評価だった。 ゼミ生全員それぞれの卒論研究の進捗状況、就職活動に合わせた授業を進めたつもりだったが、今後よりゼミ生の全員の要望に答えられる授業を進めていく。</p>
<p>S211095 地域研究</p>	<p>中国に関する基礎知識を理解する。 中国の社会変化を象徴する具体的な事例を通して、「中国」を客観的にみることができるようになる。 現代中国社会に対する理解を深めることができる。 中国のビジネスを理解するため、中国そのものを理解することを目的とします。具体的には中国人の考えを理解して中国への関心を高め、変化しつづける中国、そのような変化を中国人自身がどのように考えているかを、総合的に中国の文化と社会を理解することにより、中国のさまざまな社会問題を取り扱う基本的な方法論を身につけることを目的とします。</p>	<p>全て対面授業で実施した。 事前に学生が中国に関心を持つテーマをアンケート調査し、それを踏まえた授業計画を準備することによって学生の授業参加意欲を高めた。中国出身の留学生とグループワークやロールプレイなども取り入れた授業も工夫した。 公欠申請による遠隔授業を受ける受講生には、授業の資料が多かったが、UNIPA にアップできる容量が限られていたため、学生に合わせて you tube にアップしたり工夫をした。</p>	<p>評価は昨年の 4.60 よりやや低く、4.533 (4.4、4.5、4.5、4.7、4.6) でした。 回収率は昨年の 25%より 50%になりました。 今年度は予定していた授業方法を変更し、事前に学生が中国に関心を持つテーマをアンケート調査し、それを踏まえた授業計画を準備することによって学生の授業参加意欲を高めたことにつながった。</p>
<p>S211067 貿易論</p>	<p>貿易の基礎理論、最低限の専門用語や手続きが理解できるレベルを習得すると同時に、最新の話題や事例を用いて中国をはじめとする新興国市場との貿易活動への理解を深めること。 貿易・サービス・資本取引の発展によって国際経済の相互依存の度合いはどのように深化し変化しているのかを考察し、その貿易の発生するメカニズムを把握する。</p>	<p>貿易とは何か？なぜ貿易行われるか？日本は国際経済の相互依存の度合いはどのように深化し変化しているのか？貿易について基礎理論的、政策的、制度的な側面から解明し、さまざまな事例(中国を中心とした)を挙げて海外との商品取引の実態とその決済方法の基礎を学びます。 授業中には、ディスカッションを通じて知識の理解と定着をさせるようにしました。</p>	<p>授業評価 4.789 (4.9、4.6、4.8、4.8、4.8) 回収率 69.2% 評価高めですが、回答者数が履修者数の半数ぐらいために参考になるデータとは考えていない。 新カリで今年度初めての授業で、次年度は貿易基礎的な部分の講義回数をもう少し増やして、貿易に関心を引くような現実の話題も取り入れ、学生の理解度を高め行く授業を工夫していきたい。</p>

